アタゴオルは猫の森 10

ますむら・ひろし

ATAGOAL is Cat's Forest



MFコミックス

フラッパーシリーズ

アタゴオルは猫の森 10

ますむら・ひろし

MEDIA FACTORY

ISBN978-4-8401-1626-8
C9979 ¥514E

9784840116268

1929979005146

定価：本体514円（税別）
雑誌52644-26
メディアファクトリー

ツケを踏み倒していたヒデヨシに、
ヨネザアドから取り立て屋がやってきた
どこまでも追いかけてくる取立て屋から逃れるため、
ヒデヨシが逃げ込んだところは……『胸底挽歌』。
ギルバルスが現れると、ろくなことが起こらない
そうヒデヨシは言うけれど『バルボル』。
ツキミ姫に建て直してもらったヒデヨシの家、
そこに混ざっていた妙な石像に触った瞬間、
ヒデヨシ達は星街へ！『胸ニハタメク』。
猫と人が織り成す不思議な8話を
作者書き下ろしの解説
『アタゴオル余波10』とともにお届けします。



ますむら・ひろし

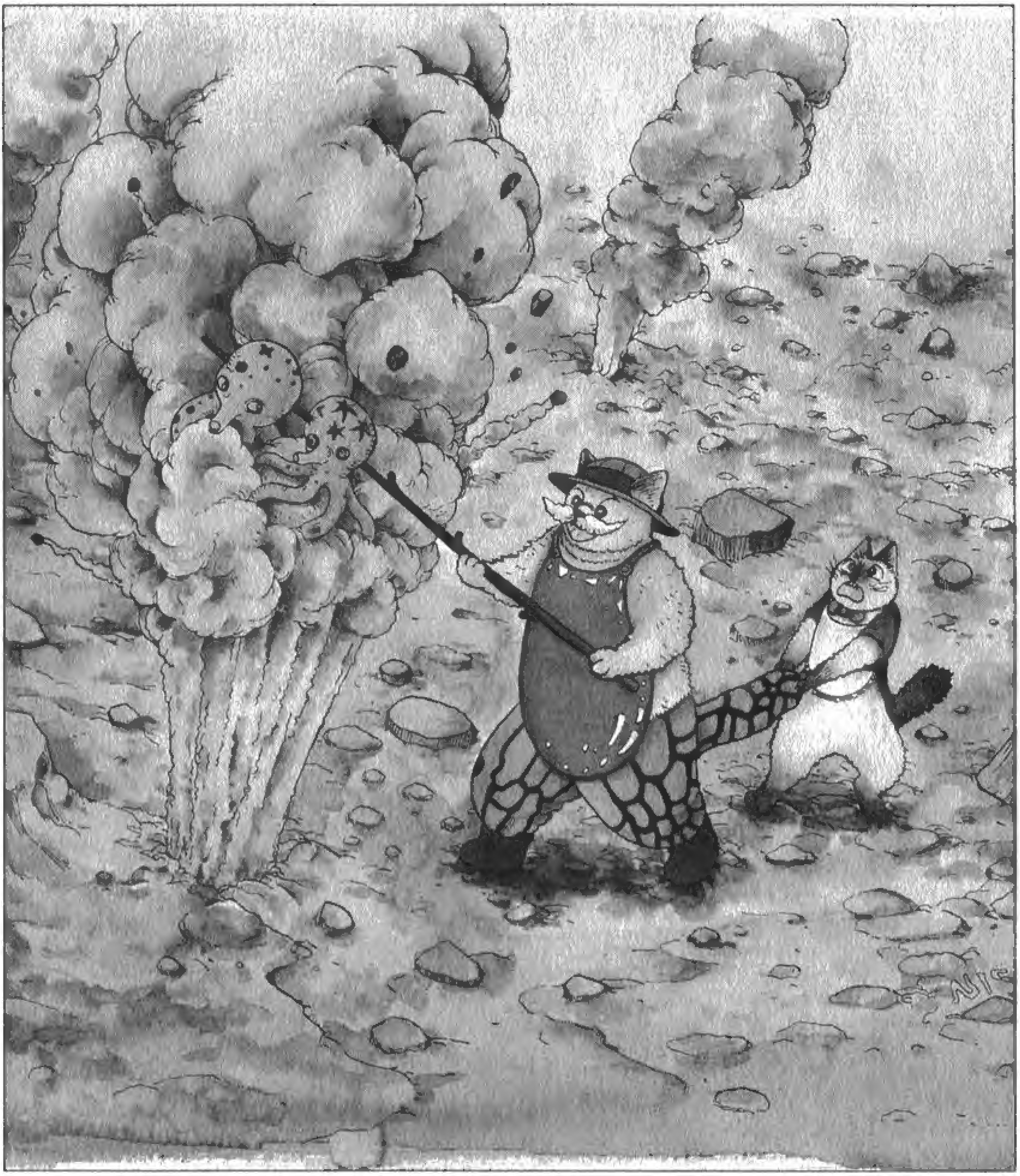
昭和27年生まれ
昭和48年、第5回手塚賞
準入選作『霧にむせぶ夜』で
『週刊少年ジャンプ』にてデビュー。
青林堂に入り『ガロ』で活躍し、
その後も『アタゴオル』をはじめ
次々と作品を各誌で発表する。
平成9年には『アタゴオル玉手箱』で
日本漫画家協会賞大賞受賞。
宮沢賢治作品の漫画化にも取り組み、
『銀河鉄道の夜』が劇場アニメとして
昭和60年に公開され話題を呼んだ。
現在『月刊コミックフラッパー』にて
『アタゴオルは猫の森』を連載中。
平成18年10月『アタゴオルは猫の森』が
劇場アニメとして公開された。

装画・ますむら・ひろし
装幀・多田和博＋岡田ひとみ
フォーマットデザイン・フィールドワーク

ATAGOAL is Cat's Forest

アタゴオルは猫の森 10

ますむら・ひろし



アタゴオルは猫の森 10

ATAGOAL is Cat's Forest

第一話　メル・ゲンバ・ルベ 前編




じえ〜〜っ
アタゴオルーーーッ
たまいやーーっ
うっ
なんだ!? 火山が飛んでるぞっ
ヒデヨシの奴が帰ってきた……
平穏な日々よサヨウナラ
騒音の日々よコンニチハか
でもアイツがいないと
この森静かすぎるけどな


ズゴゴ
とーちゃーく
オレがどっかに行くたびにドラネコ団が住みついてんだよな
きれいに掃除なんかしててさ
らっ
きたないままだ
あいつらどうしたんだろう?
パンツの家
お茶でも飲んでいけば
ああ
あれ


なにやってんだドラネコ団?
そーか判ったぞっ
えっ判った?
このナゾはトンガラでポンガラなのだっ
さすが親分っ
まるでパンツみたいですねっ
よーし次はカツラだ
おう


ゴッ 判った
なに 判っただと!?
このナゾはポンボコでペシペシなのだあ
偉いぞ カッツラ パンツみたいだぞ
おほほほ
ぱん
なにやってんだ?
う……
パンツ・ゴッコしてたのさ
パンツ・ゴッコ!?
本猫が帰ってきたからには しょーがない
野郎ども


撤収だーっ
てっしゅーーっ
ドラネコ団……なに読んでいたのかな
この紋様……封印文字の一種か？
ああ テペテラ封印さ
ヒデヨシ得意の火薬石で吹き飛ばしても割れない呪文の封印だ
針々森の中にでかいのがあるけどなにが封印されているんだろうな
遠い昔の禍なんだろう
ぐーっ
ぐーっ


オレたちゃ
欠食ドラネコ団
ゴッ
どうした
カツラ
んっ
ああ
この印は!!
パンツの家の
本の中にありましたぜ
なんだろう
これ?


フーム
ただの穴だな
まっ暗だ
ごっ
ほっほっほっ
ドラネコ団の諸君
君たちには
この岩のナゾは
解けますまい
んっ
ヒデヨシめ……
インチキ・スミレ
帰ってたのか
ト
無学な
おまえたちが
学問にめざめるのは
ヨイことじゃ
さあワシの弟子になれ


弟子になれば
すべてが判るぞ
サ——ッとっ
誰が弟子
なんかに
なるもんかっ
どうせ
おまえの説なんて
デタラメ
なんだから
まともなものは
1つもないぜ
しゃべりたいのじゃ
しゃべりたいのじゃ
ワシの説を
聞いてくれ——っ
凄——い説
なのじゃあ
パタ
パタ
凄い説!?
……話してみろ
よ〜〜し!!
この岩は
ワシの弟子の
パンツの調査に
よるとじゃな
パン
パン
古くは
ズズメ岩と
呼ばれてたのよ
そして
あの印には
封印の力が
あるのじゃ
フーイン!?


そう!! とじ込めて あるのじゃ
この岩の中には なにかトンデモナイ ものが入って いるのだな
とんでもないもの!?
なんだ!! なんなのだあ
タコの王子様
昔々 蛇腹沼に住んでいた 大ダコの王子がだな
食い逃げや 万引きばかりして いるのでココに とじ込められたのさ
パーン
タコの王子様!?
それって おまえじゃないか
なにが タコの王子が 万引きだよ
まったく!! 頭おっかしくて 悲しくなるぜっ
なんだとォ


それじゃ おまえたちは なにが封印されてると 思ってるのじゃ
返答したまえ ホレホレ
うぬぬ
ゴ
ヒソ ヒソ
やっぱり……
…うん …そーだな
どうじゃ ドラネコ団は なにがとじ込められてると 思うのじゃ？
イカの大王だ
くっ
その説も あるんだよなあ
おっ 動揺してるぞ
どーだ インチキ・スミレ
よーしっ 賭けしようぜ
イカが出てきたら おまえはドラネコ団の 家来になる タコが出たら オレたちが 弟子になる


よろしい
それじゃあ火薬石でこの岩ぶち割っちまおうぜ
そんなことワシがすでに何度かやったが割れないのじゃよ
パンツが言うにはこの封印の印の力だとよ
くくくっ この封印は解けないのかい?
正しい呪文の言葉を言えば解けるらしいぞ
呪文かあ
くっそお めんどくさい岩だなあ
なんなんだっ中に入ってんのは!!
おんやあ
やあ
こんちは


おお
ツキミ姫
い──ところに
来たっ
お主
この岩の中が
見えるか!?
ぺん
普通は
透き通って
見えるけど…
おかしな力が
漂ってて
ボンヤリしてるぞ
ボンヤリかあ……
でも ボンヤリでも
なにか見えるんだろっ
なに見えるんだっ!?
そーじゃ タコだろ
大ダコの王子様
見えるだろうっ
そういえば……
ボンヤリと
針のようなものが
針?


じゃあね
針かよォ
針なんかじゃ
ないぞ
きっと
イカだぜ
よし
ぶっ飛ばす
ぶっ飛ばす!?
ホッホッホーッ
凄ーっ
どうしたんだ
そんなに
たくさん
火薬石
これだけ
あれば
さすがの
岩もボコボコに
くだけるのう
偉いぞカツラ君


ズドウン
くぬう
しぶとい岩だ
でもヒビが入ってますぜ
ゴッ
ガン
ゴオッ
ガン
まっ
ピシッ
らっ
おおっ


針だ
ピカピカ光ってるぞ
ほう
穴から針が出て…コレだけかよ
つまらん岩だなあ
翌日
たくさんの針が穴から!?


そーなのじゃ てっきり タコの王子が 出てくると 思ったのに
針とは 興味深い…
どうして ですか？
あの岩がある 森の名前は 針々森ですよ
そうかっ 森の名の 由来に… 針がっ…
そーかっ そーだったのかあ
どうしたん だよ おまえ
スミじゃない!! 針だっ
針を吹くタコが あの岩の中にいるんじゃあ
パンツ君 ワシの説を 盗むなよっ!!


ありゃ
こら どこへ 行くっ
フフ
ホントだな 「図書館に行く」と言うと アイツ ついて来ないね
オレたちだけの 秘密の発掘場
ついて来られては 行けないからねえ
誰も知らない
ヒデヨシが 知ったら 一日で 吹き飛ばして しまうもんなあ



少しずつ ていねいに
気の長い 作業だから ねえ
3時間後
パンツ ちょっと 休憩しないか
オレは も少し やるよ
テンプラ 休みな
昔はオレも 何時間でも 平気だったのに…
カリ。
カリ
んっ
ふっ


うわっ
なんだ これっ
どうしたんだ
テンプラ
パンツ おまえの
真上に!!
真上?


別になんにもないぞ
ええっ それが見えないのか!?
きれいな青空しか見えないぞ
これはオレにしか見えない幻覚なのか
なにが見えるんだ？
ちぎれちぎれの青黒い大きなもの
直視できない
胸が苦しくなってくる
キッ


キエーーーッ
ん？
どうしたんですか親方？
青臭いバケモノだあ
なに寝ぼけているんですかなにもいませんよ
アレが見えないのか？
胸が苦しいっ たまりませーーんっ
3日後
で…まだ見えるのか
ああいるよ



やあ
ようツキミ姫
後ろにいる青黒いのはテンプラ君についている奴なのか
えっ ツキミ姫には見えるのかっ
ああ
これはいったいなんなんだい？
よく判らないけど…
なにかブツブツ言っているのが聞こえるよ
「メル・ゲンバ・ルベ」って言ってる
えっ
それって古代ガミ語の言葉だっ
いったいどういう意味なんだ？


「ルベがおまえを
ゆるさない」

第二話　メル・ゲンバ・ルベ 後編




ルベ?
ああ「ルベがおまえをゆるさない」
ルベってなんなんだい?
調べないと判らないが聞いたことのない言葉だよ
ルベってこいつのことかなあ?


こいつと言われても
オレには見えないいん
だよなあ
それにしても
ずいぶん
たくさんいるなあ
たくさん!?
ひとつしか
見えないぞ
どういう
ことだ…?
見える者には
ひとつだけ
見える…
ということか
でも まともに
見ることが
できないいんだ
胸が苦しく
なってくるような…
不思議な
物体だねえ
あれっ



オレにも見えてきたぜ
なんだコレ?
確かに胸がうずいてくる…直視していられない
あら あっちからも直視にたえられない者が
よーっ諸君
君たちも針吹きダコ探しですなあ
針吹きダコ?



博士の後ろには大きな青黒いものついてないね
ハテなんのことやら
そんなことより
針吹きダコの手がかり見つけたら必ずワシに知らせてね
はいはい
そんなことよりルベの意味を調べなくては…
3日後
するとワシのそばに青黒い奴がいるのか？
ええ…
ハーーッ


こら テンプラ君 唐あげ君がこんなに 苦しんどるのに な――んだ そのダラケた 態度は!!
ドスドス…
あの おかしな物体が 後ろから見て いると思うと
なんだか気力が 失くなってくるんだ…
そういえば パンツ君 「ルべ」の意味 判ったかなあ
唐あげ君や テンプラ君が このザマでは パンツ君も ダラケて おるであろう
「ルべがおまえを ゆるさない」…か
ルべって あの 青黒い奴じゃ ないのかなあ
ルべちゃん ワシも 見たいのう
オイラも 見てみたいなあ ドラネコ団も 見えないらしい です


あれっ
おっ
うっ
あっ……
針!?
胸の苦しさはこの針のせいなのか?
それが証拠だ
証拠
やっぱり君たちは針吹きダコにやられたのだ
タコなんて見てないぞ
テマリ君、そやつはとても素早いのじゃ
そしてワシがつかまえるのよ――っ
ドスドス


出て来ーーいっ
針吹きダコーーッ
うっ
ぐーーっぐっぐっ
大声出すと腹へっちゃうのであーーる
やっ
ススオ君
なにがススオ君だ
帰れーーっ ドロボウ野郎
ほほほっ 君ーーっ 気合が入っとらんよーっ
青黒い でかいのがいて ヤル気がだんだん落ちてきとるのだ
ドロボウが来たというのに


失敬な!!
ワシはドロボウではないのよ
ホレホレ
「研究で一発当てて賞金が入ったら魚代払いますスミレ」
ホーラ
借用書じゃぞっ
じゃ魚借りるよ
コノヤロ
2日後
だめだっ
気合が入らねえ
ススオ君またねーっ


ああ…
気持ちが
薄まっていく…
「ルベ」の意味など
どうでもいい…
だめだっ
なんとしても
見つけなくては
ほっほっほっ
本日も――っ
楽勝――っ
しかし
魚屋が追ってこないと
楽だが
つまらんのぉ
ま〜〜っ
青黒いなんとか
つー奴のおかげで
あちこちの魚屋が
やる気なくて…
助かるけどよう
では
いただき
まする
はぐっ


盗んだ魚はうまいのかい?
ん
なんだお主ら
魚食べたいのかね
違うよ
ここらがカツラ君が吹き飛ばしたズズメ岩のあったところだろ
そうじゃ小さな針が輝きながら飛んでいったのじゃよ
どうも このあたり
おかしな気配がする
なに?
タコがいるのか!?


らっ
なんだ コイツ
針でできているけど タコじゃないぞ
何故…… その娘と 大猫……
胸に針を 受けていない のだ……
私はツキミ姫 あなたは 何者ですか？
そうか


これだっ
「ルベ」の意味が判ったぞ
……ワジナル!!
私はワジナル
それ以上知りたければ
はっ
ほう
これを味わうがいい


うっ
ムダなこと
シュル
シュル
フッ
つっ
あっ
ツキミ姫
…う…



やっと人並みになったな
タコもいいけど お主も面白いのう
とっつかまえて見世物にしてやろう
愚か猫よ
私の針でその心を洗ってやろう
よーしっ こうなったら動きの素早いヒデョシ君に
変わり身じゃ
フッフッフッ このヒゲがピンと伸びた時にはもう
おまえはくたばっているのよォ
愚かさが増しただけだな



さあっ
ボゴボゴに
してやるぜぇ
サッ
痛で
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
のろすぎて
まともに
当たった
フッ
あっけない奴だ
痛ででで
ぺっ
こっけな針で
参るかよっ
!
何故だ
何故 針が
効かないんだ

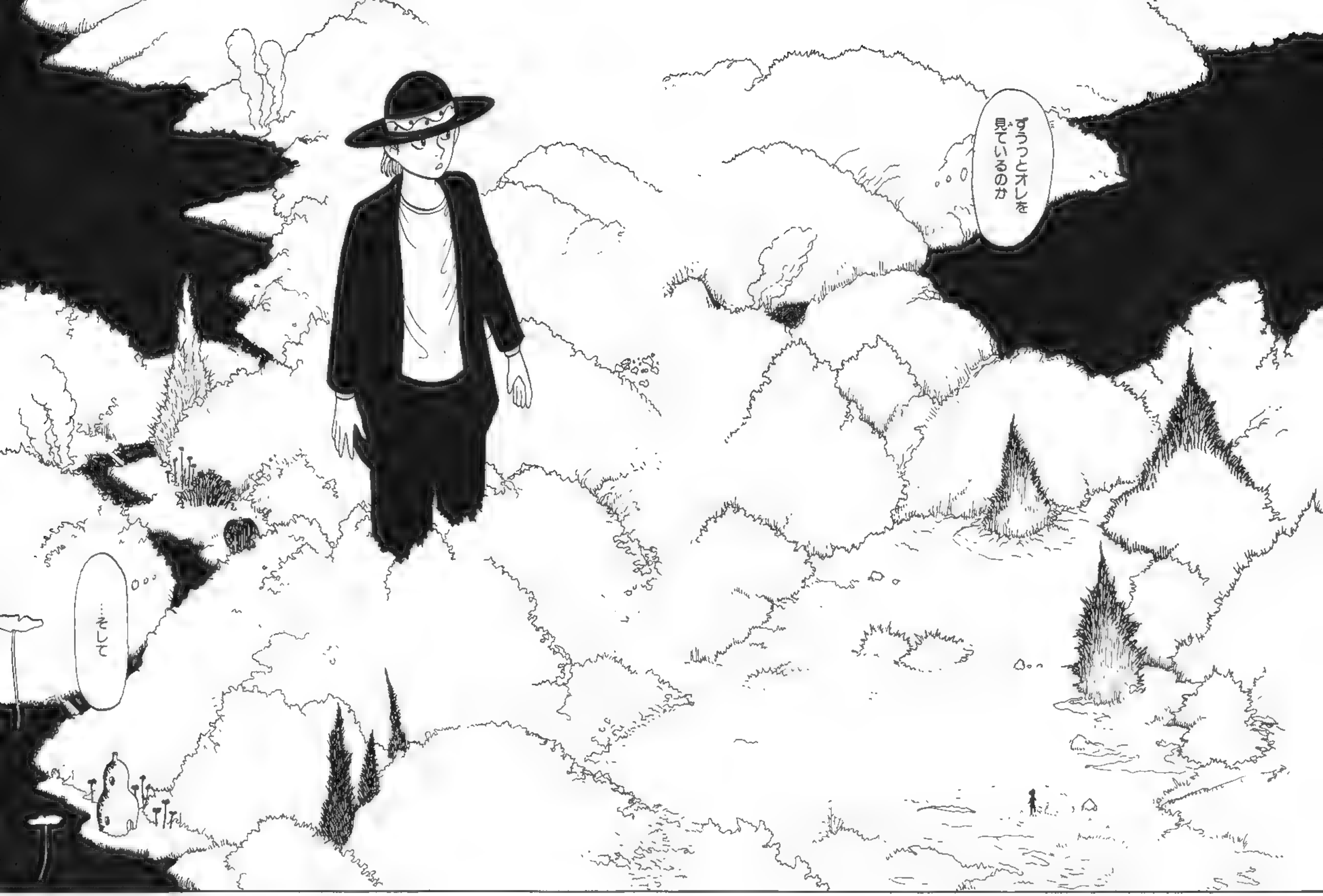

とう
そんなもので倒せると思っているのか
このっ
くぬぬーーっ
このーーっ
ポヨポヨ野郎
モゴ
モゴ
らっ
シュー
シュー
シュー
シューー?
うっ
なんだ
コイツ
どうしてこんなに熱いんだ
オレは汗っかき猫なのさーっ


その熱じゃない
おまえの気持ちだ
気持ちの温度だ
気持ちの温度？
離せっ溶けてしまう
私より熱い者など存在しないはずだ


クッツッ
何故おまえはそんなに熱を持っているんだ
おほほほ溶けてくわあ
子供に 針が効かないのは判るが……
シュー
シュー
子供にこんな発熱はない……
知・り・まっせーん
おまえこそ…
バケモノだ…
ホッ
やったぜ


あっ
針が消えていく
ふう
ら
オーイ
ようパンツ
ススメ岩に封印されていた針の正体は
ワジナルというものなんだっ
ワジナルなら今オレがぶっ倒したぜ
え？ホントか
ワジナルは「意識の熱さ」そのものなんだよ
おまえのはそれをうわまわったのか!!
パンツ
「ルベ」の意味は判ったのかい？


ああっ
ルベというのはね
!
ルベって……
「熱病のような無我夢中」……
そうか……オレが昔銀ハープを吹くことに夢中になっていた頃
狂気じみた練習の日々が続いた……
あの時の気持ちが


ずうっとオレを見ているのか
…そして


今のオレを
ゆるさないのか

第三話　胸底晩花（むなぞこばんか）




やあ おめでとう
今年もよろしくな
ずいぶんつかれた顔だなあ
ヒデヨシが居座って唄いまくりの飲みまくりやっと帰ったのさ
それはそれは…
あいつ年末になると借金取りや魚屋たちに追われて
家に帰れないからなあ
年末の風物詩だよ迷惑な



まあ 年が明けて
しまうと
魚屋たちも諦めて
しまうんだけどね
あれっ
ザッ
ザッ
ザッ
なんだろ
見かけない顔だねえ
ああ…
ん？
後ろから…
ヒデ丸が
ついていくぞ
ドラネ■団もだ
行って
みよう



足跡がある
帰ってるな
コラーッ
ヒデヨシッ
中に居るのは
判ってるぞ
出て
来ーい
おんやあ
あれまあ
アタゴオル魚屋組合の
ゲミゲミ親父様に
ウドン屋連合の…
ムルモヘちゃん
どーした
のォ
どうしたのォ
じゃねーよっ
溜まりに溜まった
食い逃げ代金と
万引き代金
払ってもらおう
アレーっ
それって
みーんな
去年の話
でしょう
新年はなんの
ために来るかっ
…それはね
去年の事を
み———んな
忘れるために
来るのよ——っ
ヤカマシイ
今までは諦めて
いたがっ今回は
断固 回収するぞ


お金なんか無いわよーっ
あっても払わないけどねっ
あんな奴なんですよろしくお願いします
うむ
らっ
あんたたちも魚屋なのか？
取り立て屋だよ
ヨネザアドの「ガッポリ商会」です
ヒデヨシさんこちらは穏便に済ませたいので
おとなしく借金払ってくれませんか
そんなやわらかな声で言われてもね
お金じぇんじぇん無いのよォ
帰ってくれる？
絶望的ですなあ
そんなら始めよか
へい



ぐわっ
ああ
凄いっ
あらーっ
家がぶっかけたっ
くっそーーっ
金なんか絶対
払わねーぞォ
あっ


わははは
あっ タコ気球だっ
あいつ用意周到だなあ
サラバ へたくそ取り立て屋
パシッ
ら
シュー
キャーーッ

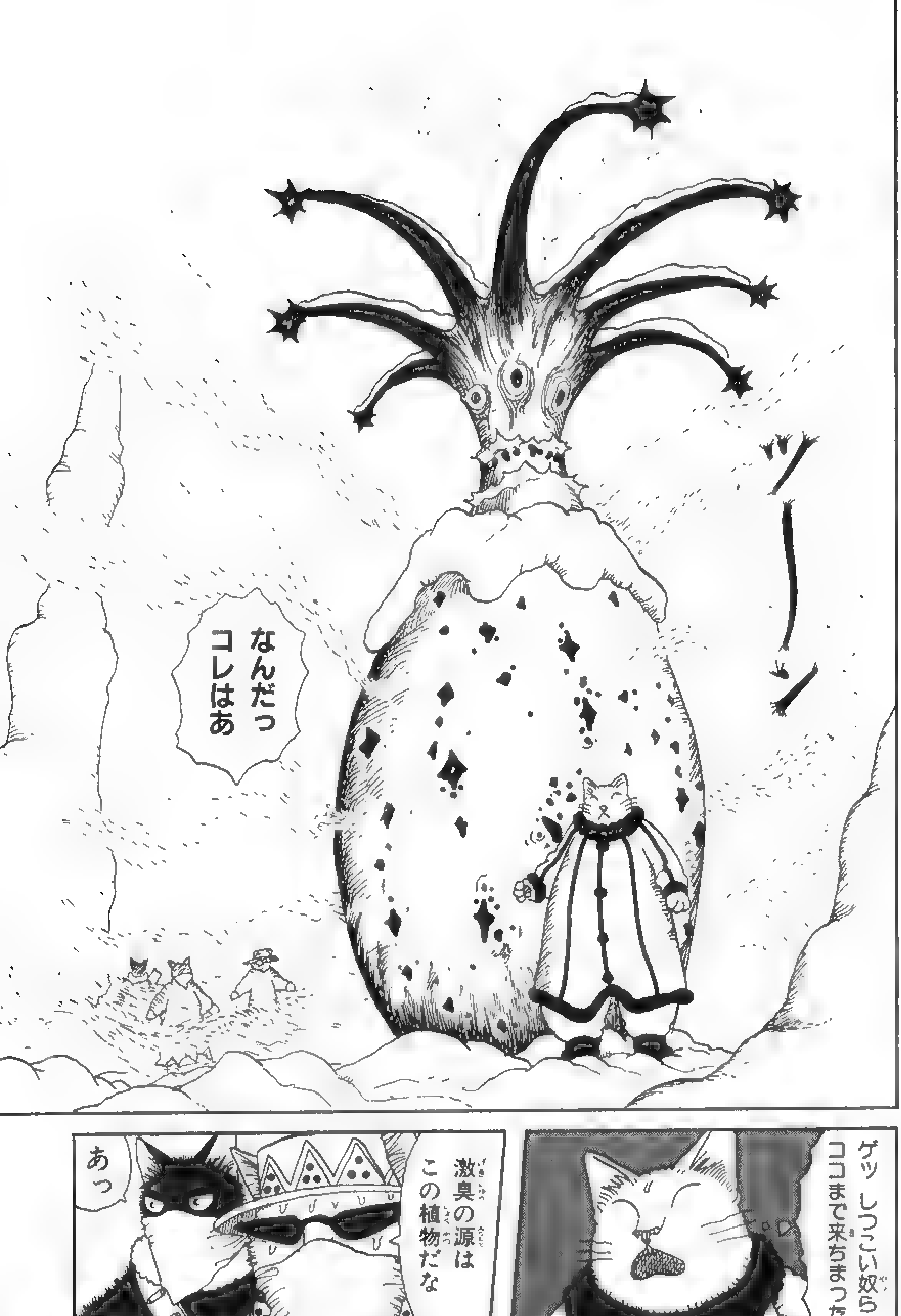

ドドっ
痛でで
ズズッ
翌日
も〜〜〜〜〜っっ
しつこいよお
ホッホッ
ドッ
ドッ
ガッポリ商会を
なめるんじゃないぜ
追えっ
眠いよオ
眠く
ないのかよォ
それっ
眠けざましだっ
ドドッ
キャッ
ボッ
冬は足跡が
残るから
逃げられやしない


おっ
やっ
ドフ
ドフ
ドフ
くっすおーーっ
つかまれーーっ
ヒデヨシーーッ
転べーーっ
おのれっ
ドラネコ団
めーーっ
ヨネザアドの
取り立て屋
だってさ
さすがのヒデヨシも
今度は逃げられないね
ハアハア
あいつ追いつめられたら
……最後に行く場所が
あるぜ
最後に
行く……？


ああっ アイツしか 入って行けない 所さ
気がつけばの 話だが……
ダメだっ眠いっ このままでは 捕まってしまう
奴らが 来れない所…
にゃん
ホーーッホッホホ
ドフドフ
待てーーっ
ドフ
やっぱり 気づいたか
取り立て屋も これまでだな
追えーーっ
ザザッ
んっ
ぐっ
なんて臭いだっ

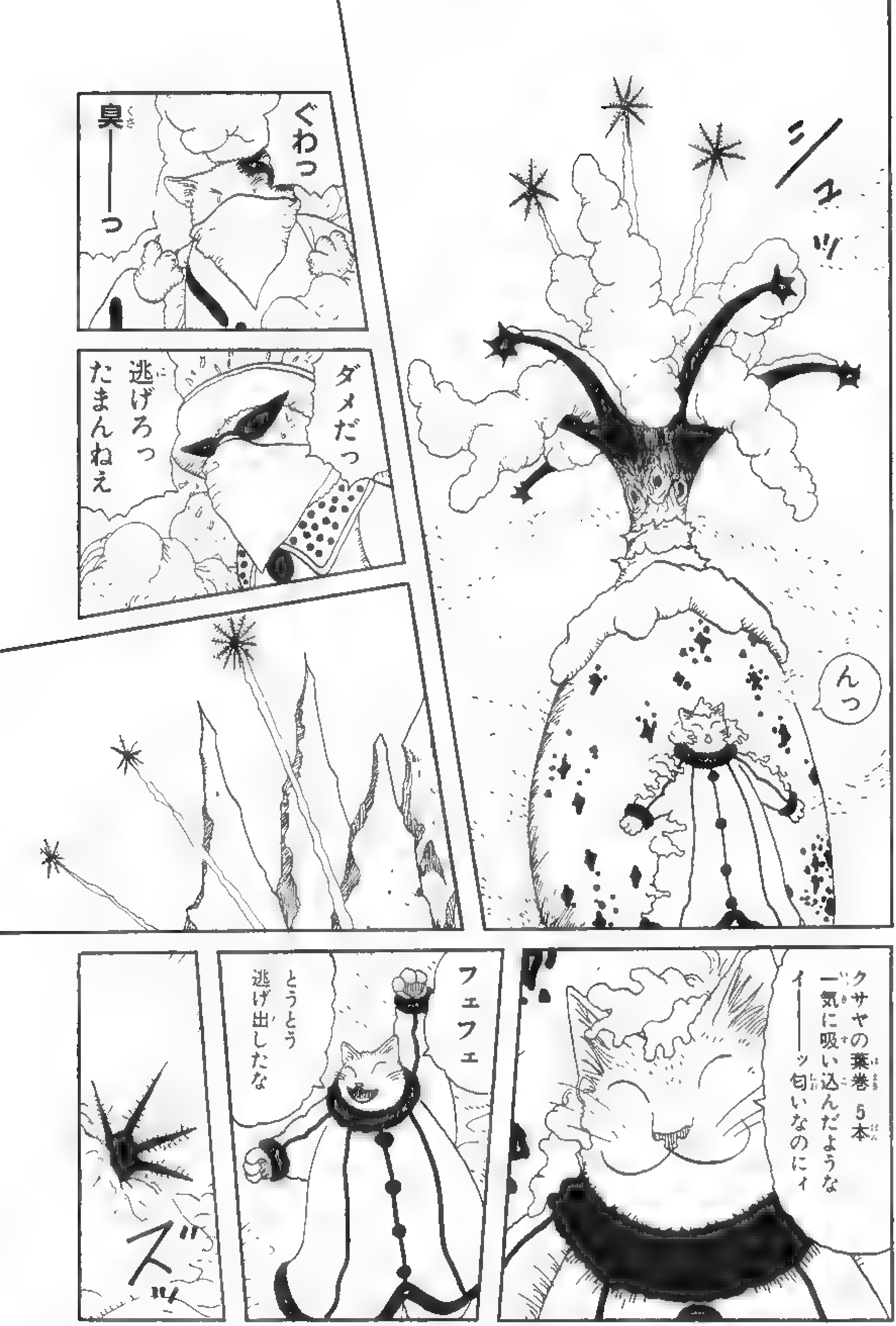

「クサヤ谷立ち入り禁止」
「臭いを吸いすぎると死亡します」
野郎 とんでもない所へ入りやがったな
ひとまず引き返しますかい
取り立て屋に撤退はない 行くぞっ
ホッホッホ
あいつらビビってるな
よし 今のうち
サコ
サコ
フェフェ 足跡を消して…
・・・


臭いがモヤのように
なって見える…
激臭だ
目もチカチカする
奴の足跡も消えてますし…
会長…一度引き返しましょう
ダメだっ 野郎
捕まえてやる
くそお
しぶといなあ まーだ追って来るのかよォ
よーし こうなったら
臭いの源の所へ行くしかないな
くぬぬ…臭いが凄すぎて
頭がクラクラしてきたぞ
おっ


ヅーン
なんだっ
コレはあ
ゲッ しつっこい奴ら
ココまで来ちまった
激臭の源は
この植物だな
あっ



アイツの足跡だ
おい
ヒデヨシ
そこに隠れて
いるのは
判ってるぜっ
ドキッ
ピ
タ
ッ
観念して
出て来いっ
さもないと…
会長
あんまり
臭くて もう
1歩も近
づけません
オレもだよ
よーしっクロブ
この忌まわしい
植物とヒデヨシを
吹き飛ばせ
へい
らっ
ニュ
ニュー
にゃあああ
ペタ
ペタ


シュッ
んっ
ぐわっ
臭――っ
ダメだっ
逃げろっ
たまんねえ
クサヤの葉巻5本
一気に吸い込んだような
イ――ッ匂いなのにィ
フェフェ
とうとう
逃げ出したな
ズッ


シューッ
クサヤ谷に逃げ込んだ!?
それでも取り立て屋が入って行ったんだが
しばらくしてから
ヨロヨロして出てきたよ
あんな激臭の所に入れるのはヒデヨシだけだよ
嗅覚がデタラメですからねえ
あの谷には
なにかあるんですか？パンツ君
前から調べようとは思っていたが あんな臭いの所には近づけないんでね…
ヒデヨシ君に前に聞いたら
大きなメリメンの実みたいな紫色の奴があるって…


やっぱりな…それはたぶん
絶滅したはずの胸底晩花だよ
胸底晩花!?
ああっ今夜家で調べてみるよ
翌日
ああ…
頭がまだズキズキする
会長……あんな奴捕まえるのやめませんか
ああオレもやめてえよ
どうみてもアイツはまともじゃない
あっ


やあ…どうかしましたか?
どうかしましただとコノヤロウ
ふざけんじゃねーーよっ
うぐっ
ホレホレッ
ギュッ
痛ててっいったいどうしたんですか?
やったヒデヨシを捕まえたぞっ
えっ!?
オレテンプラですよっ
臭い芝居してんじゃねーーよっ


なんかのマチガイですよォ
あーーっこれでヨネザアドへ帰れるぜ
うっ
あれーっ
とうとう捕まったのネッ
なんだコレは!!
そいつがヒデヨシか?
なにを言ってるのですか? 私はテマリという者です
大変だあっヒデ丸がっ
親方も大変ですよーっ
ああっどーなってんだあ
んーーっ


フフ
なんかおかしいなあ
あ〜〜っなんで私がヒデヨシに〜〜っ
ああ…
ヒデヨシだらけだ
いったいどうなっているんだ?



原因はコレだよ
あっ それはあの臭い植物の先から吹き出して飛んでいったものだ
やっぱりな
やっぱり？
その植物は胸底晩花というものでね
この胞子が吹き飛んだ原因は……
ヒデヨシが植物にさわったからだと推定される そして
この胞子から出ている微粒子をみんなが吸ってしまったためさ
フーム… みんなが吸ってしまったのに…
どうしてオレたちはヒデヨシ化しないんだね？
それは植物誌によると
あいつの姿になった者は


心の底で
アイツのことを
好きだからです
へっ
あんな奴を…?
え~~っそんなハズない
絶対なにかのマチガイよっ
この森の連中
頭がおかしいんじゃねえか
ああ
ヤメたっ
ろくな所じゃねえや
ヨネサアドへ帰るぜっ
4日後
ぐーっ
ぐーっ
オレたちゃ
欠食
ヒデヨシ団
ほほほっ
モテモテよォ


しかし
凄いなあ
この気分
ああ
ヒデヨシの気分って
こんななのか……
陽差しを
見ているだけで
ほほ笑みが
湧いてくる
鉛色の空だって
ワクワクして
うれしい
雪におおわれた
木々を見ているだけで
ピョンピョン
はね回りたくなる
アイツって
本当に


生きていることを
よろこんでいるんだなあ

第四話　バルボル




わーーい
できたのよー
でっかいカマクラの家
ついに完成です
なかなかの出来ですね
借金取りに家をブッこわされたのをいいことに
あちこちの家に泊まり続けて騒ぐわ食いちらかすわ
これで春までは安心だな
ああ…やっとゆっくり寝れる


さーーっ　みんな
餅が焼けたよーっ
ハフ
ハフ
んめーっ
おーっ
星豆餅ーっ
ヒデヨシ君
こんな熱いの
よく食べられ
ますねえ
おほほっ
オレの舌は
猫舌なんかじゃ
ないのすああ
あれっ
笛の音だ
笛？
んっ
聞こえないぞ
なーんも


誰だっけ？
あの笛吹き親父
わあっ ギルバルスだ
ギルバ!! そーか あいつかあ
やあ ギルバルス
ひさしぶり
ようみんな
しばらくだな
甘い


甘いぞ諸君
なーにをニコニコしているんだっ
なにが甘いのよ 急にスミレ髭なんかつけてっ
よいか ギルバルスが来ると
ろくなことが起こらない
悪党どもがやって来たり化け物が出たり
そういえばそうですねっ
すると また禍が!?
ギルバルスが禍を連れて来るからじゃ
禍とギル公はグルなんじゃよっ
相変わらずの妄想だな
起こる絶対にっ
なぜなら…
ところで 君ーっ なにしに来たのさ?


滝ノ森に用があるんだ
滝の森!?
なんで刀なんか持って来るんだよ
化け物が出て来るに決まってるべ
滝が凍ってしまってるね
ああ すばらしい


みごとな金氷(つらら)だ
金氷!!
ああ
オレは金氷を探しに来たのさ
かき氷屋でもやるのかな?
いやっ 旅で出会った男に
これをもらったんだ
なんですかそれ?



古の呪術師が
持っていたバルボルと
いうものらしい
バルボル
いいかい
らっ
あの氷だけ
青っぽくなったぞ
どういう
ことだ
どうやら
これのようだな



なんなのよォ
この氷!!
よし……
これを野原に
運ぶのさ
ええっ
これをですか？
おまえに
食わせる
金はない
さあみんな 金氷の
そばに集まって
よーしっ
紅マグロ
3本くれれば
手つだうわっ
ありゃ
ピッ
ピシッ


ら
スッ
凄ーっ
ぐーっ
ぐーっ
オレたちゃ欠食ドラネコ団ぐーっ
ヒデヨシの奴でっかいカマクラの家を作ったみたいですよ
なに
よーしっブッコわしに行こうぜ
ごつ


金氷つっ立ててどーすんのさ
バルボルとかいうの 氷に当ててるぞ
ありゃ
雪の固まりが飛んで行くぞ
あれっ
金氷の先が光り出した
ねえねえ なんなのさ この氷!?
夜になれば判るよ


くーーっ
待てないっ
夜まで待てないわあっ
じた
ばた
バルボル……どこかで聞いた言葉だなあ
ああ……
アタゴオルのお湯は格別だ……
ふーーっ
ふーーっ
腹へったっ
オレ家で飯食ってから金氷んとこに行くわ
ザッ
さっきウドン屋であんなに食ったのに
あきれた腹だなあ
ほっ
ドフ
ほっ
ドフ
ドフ
じゃーん



みんな騙せても オレは騙されないぜ
氷の中にいる化け物めーっ
出て来いっ
金氷ぶち割ってやるぜっ
パシッ
う
コラッ 誰だっ
なにやってんだよ おまえはーっ
ありや テンプラに パンツ
オレも いるぜ
ぐぶぐぶ


金氷を割ろうなんて
とんでもない奴だ
ギルバルスが
禍を連れて
来たのよーーっ
絶対この中に
化け物が
いるのよーーっ
あっ
んにゃ？
光り出したぞ
あれっ
チカ
チカ
あちこちで
点滅が
おっ
この輝きは


雪原に染み込んでいた月光だ
おおっ
なっ
なな
なんですかっ この奇妙な旋律は!?
…そうか 「バルボル」って古代タタ語で…
ギルバルス この旋律は!?
ああ なんとも不思議な音色
これは

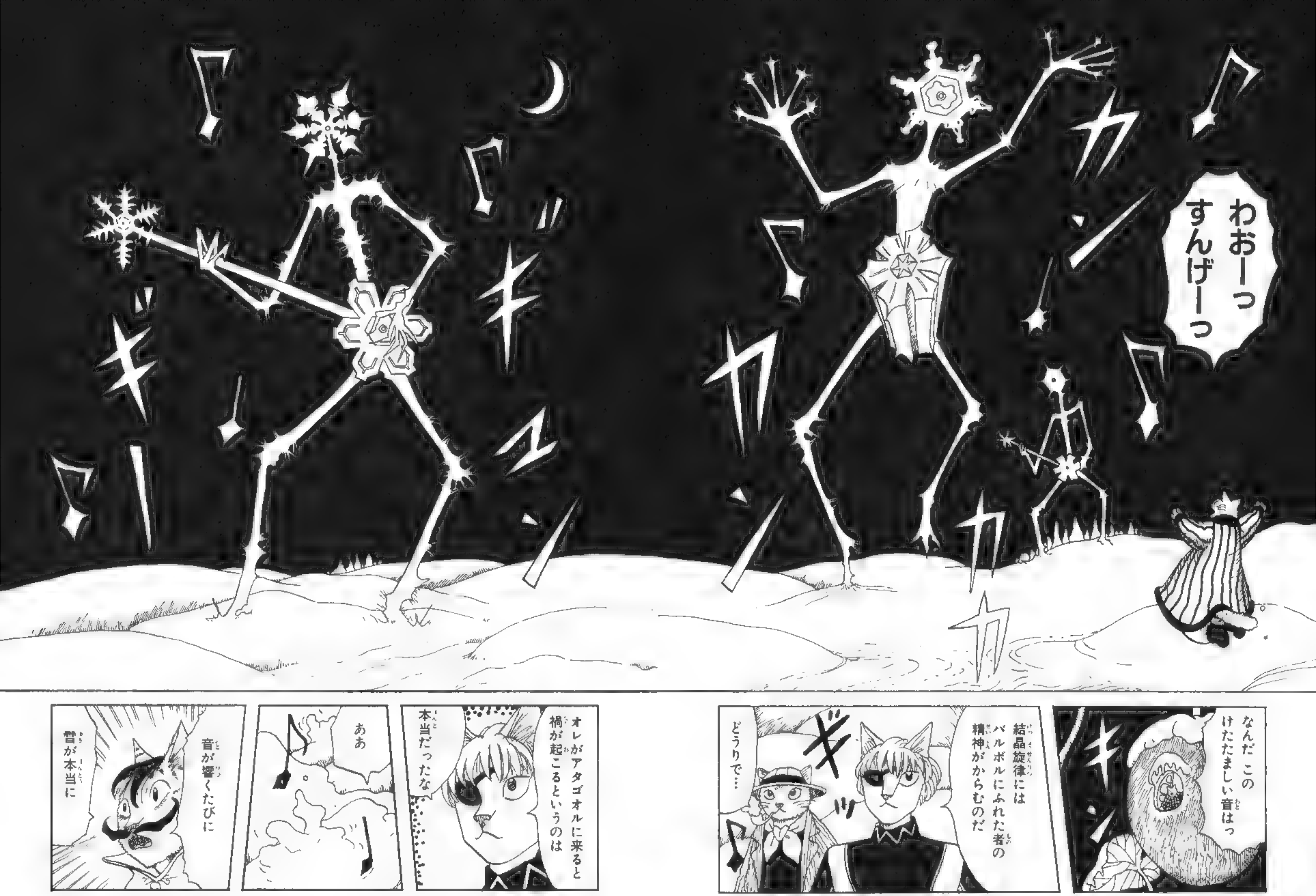

雪の結晶旋律だよ


雪の結晶旋律
バルボルとは「結晶」だ……
しかしこの旋律 実に奇妙だな…
イイ感じだわあ
自然はこんな旋律を抱えているのか
おっ 氷がくずれていく
どうだね


すばらしい…
気に入ったぞ ギルバルス
オレにも バルボルつーの 貸してくれーっ
貸さぬ
おまえには 絶対ダメだ
あっ そう
うっ
ヨロ…
くっ
バ
おとなしく 渡せばいいものを
眠り花粉ちゃん ありがとーー
翌日
おっ ほっほ


お待ちかねーっ
じゃーーん
見て見てーっ
ずいぶんでっかいなあ
凄いべ
ペンペン
これであの結晶旋律が聞けるんですね
そうよっ
イエーーーッ
夜なのよーっ
いよいよなのよーっ


おっ
輝き出した
わおっ
ああ 美しい
なんという美事な調べ…
あれっ
！



わおーっ
すんげーっ
なんだこの
けたたましい音はっ
結晶旋律には
バルボルにふれた者の
精神がからむのだ
どうりで…
オレがアタゴオルに来ると
禍が起こるというのは
本当だったな
ああ
音が響くたびに
雪が本当に


乱舞してる

第五話　メジェガ




パン
この辺の雪も解けてきたなあ
ついに冬がずらかるのよォ
プゲーウ♪
ん
なんだ へったくそな音だなあ 誰だ?



プゲィ
ジャーンッ
ダメだ カツラ
ぜんぜん合ってないぞ
う〜〜っ
や〜〜い ヘタクソ ドラネコ団
あっ ヒデヨシ
カツラはヘタだが ブチ丸もヘタよっ
くぬぬ
おまえはタイコ うまいからなあ


ホレホレ
オレのタイコに合わせてみなっ
プキ
カツラーーッ
その笛ひどい音だな
オレに貸せっ
スーッ
スーーッ
んっ
それカツラしか音鳴らないんだ
スーー!!
この笛どうしたんだい?
ひろった


ほおずき沼の底無し沼に
去年の秋カツラが落ちた時沼の中からな…
ポウー！！
ぜんぜん音出なかったのに急に鳴るようになったのさ
へーーっ
ところでドラネコ団
腹へってないか？
オレたちはいつでも腹ペコだぜ
よーし
ついて来ーい
らんら



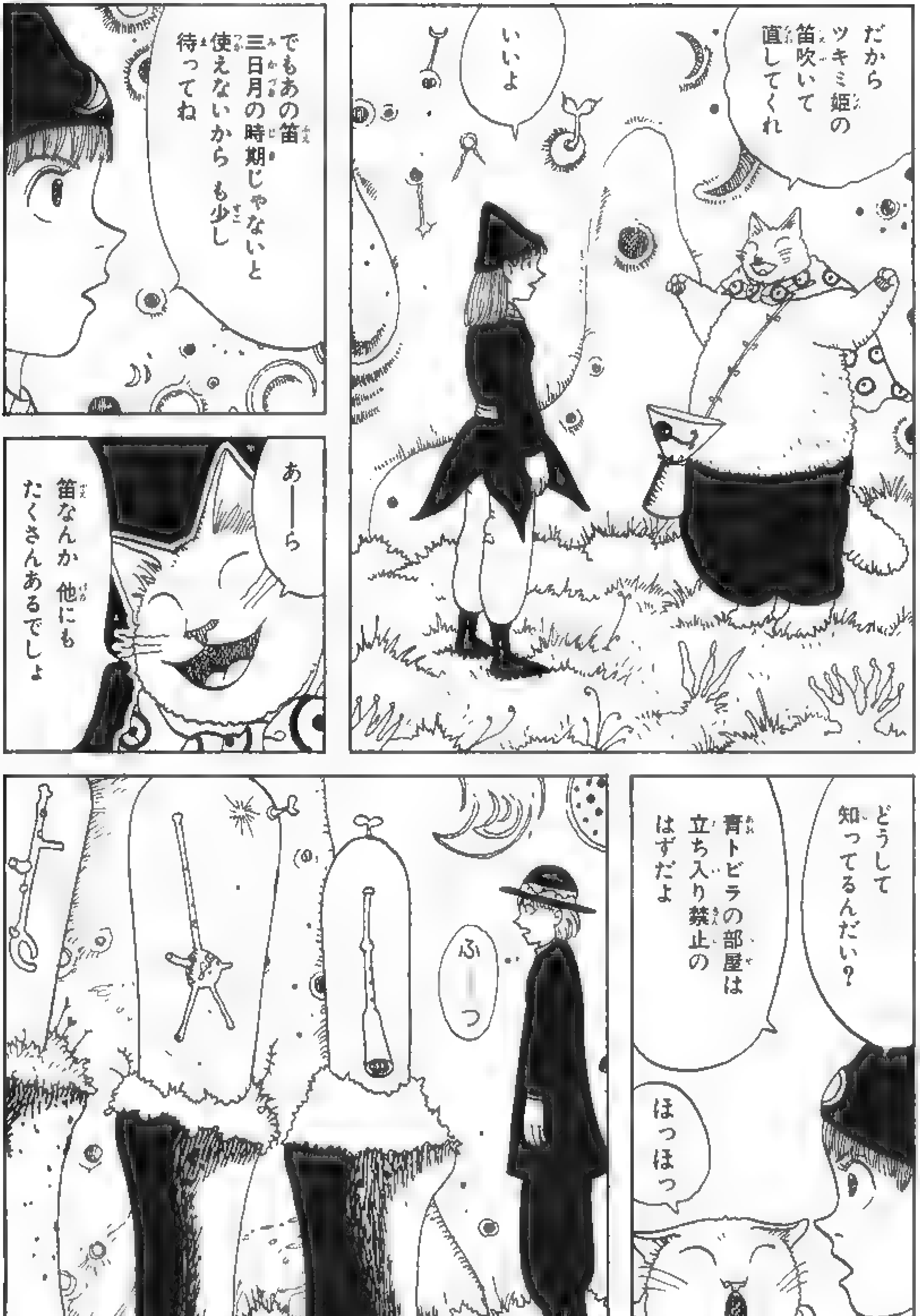
いえーーい オヤジーッ ひさしぶりだなーっ
あっ
食い逃げ猫っ 帰れ帰れっ
なんだ ウドン屋で まーた 食い逃げ するのか
おほほ
誰が そんなことを
君ーーっ
そんなこと 言っていいの かなあ
ホレ
あっ
陽炎サンショ 凄げ〜っ…
どうやって 見つけたんだ!?
アンタに あげましょう
だから腹いっぱい 食わせてくれい
よっしゃあ


ハイよっ 月見ウドン 馬鹿盛り
キャーーッ
んめーーー
ふーーーっ
つる つる
そういえば きのう ツキミ姫が 来たぞ
へーーっ 旅から帰って来たのか
おーっ
お待ちかねーっ
さっそく ツキミ姫の 家へっ
トン
トン
あれ



こんな曲じゃダメなのですっ
バン
バシ
ダメじゃないですよ…
春の新曲作りの季節だなあ
まーた行きづまっているのかよォ
オーイ親方ーっ
新曲なんか作らなくていーのよーっ
テキトーでいいのよーっ
適当!!
なんてケガラワシイ言葉
断固新しい旋律を生み出すのだっ
ワクワクするような真新しい曲をっっ
こりゃあ大悩みしそうだなあ


おーい
ツキミ姫ーっ
いるかー？
やあ
ひさしぶり
旅に行ってたんだって？
どこに行ってたのさ？
月のカケラを探しに遠出したのだ
ヒデヨシ君なにか用なのか
あのよっ
オレの家ぶっこわれたのよ


だから
ツキミ姫の
笛吹いて
直してくれ
いいよ
でもあの笛
三日月の時期じゃないと
使えないから も少し
待ってね
あーら
笛なんか 他にも
たくさんあるでしょ
どうして
知ってるんだい？
青トビラの部屋は
立ち入り禁止の
はずだよ
ほっほっ
ふーっ



ずいぶん色んな笛があるんだね
我が先祖が造らせたり集めたりしたものだよ
あれ…この笛!
それはメジェガ笛だよ
2本で吹くものらしいが あと1本見つからないんだ
らっ
この笛カツラが吹いてたぞ
えっカツラ君が!?
翌日



オーーイ
ドラネコ団ーーっ
トトト
トトン
いないなあ
おっかしいなあ
いつも この辺で
さわいでるのによォ
ゴホ ゴホ
体が
痛くて
もう…
なんかさあ
温泉湧く
ようになったらさ
年寄りが
いっぱい来て
あっちが
痛いとか
ワシャあ
もうダメだ
とか
地味だよ
なあ


ホレホレ
ジジイどもっ
ノリな
さあいっ
うるせーっ
向こうへ行けっ
ドドン
ドドン
わははは
あら
!
トン
トン
♪
♪
凄い
カツラ君には
不思議な力が
あるんだ
おーっ
カツラ
単純な曲に
なってるぞ
いい感じだわっ
ホントだ
カツラ君
メジェガ笛
吹いてる


ツキミ姫
やっぱり
うまいなあ
あれっ
カツラの笛の音と
ツキミ姫のが…
ああっ 共鳴して
不思議な音色に!!
ほほほ


く〜〜っ
春なんか来なけりゃいいんだあ
あーーっ
せっかく書いた譜面をっ
だからーーっ
テキトーでいいのよっ
新曲なんてどーでもいいの
ドーデモ
イイわけがないっ
くっ
このような無神経男をふるえさせる旋律をっ生むのだあっ
生み出すって大変だなあ


大変ならヤラなきゃいいのよっ
翌日
あれ
ここにも出てるぜ
キノコかな
キノコじゃないだろう
イス草の一種じゃないかな
キノコ的だが植物のようだぜ
あらっパンツ


根性あるじゃん
オレが座っても平気だぜ
なんでこんなもの生えて来たんだろう
あれっ
んっ
あれーっ
これって
ああ 昨日カツラとツキミ姫が吹いたメジェガ笛の音だ
えっ
メジェガ


パンツ
メジェガってなんだ？
メジェガというのは
古代パズムズ語で……
うわっ
ひえっ
ああっ
なんて気持ちいいんだ
これが「メジェガ」…


春の卵・・・


うへへへ


なんかワクワクしてくるなあ
ネコヤナギの毛に包まれてるみたいだ……
うう…
なんという心地良さ…
なんなのだろう…この感じは?
そうか


冬を越えた植物が
発芽する時の気持ち
ああ
旋律が聞こえる
何度でも新しくなり
何度でもやり直し
すべてが真っ白になって遠ざかっても
ピシッ
また新しく


オレも発芽する春

第六話　胸ニハタメク



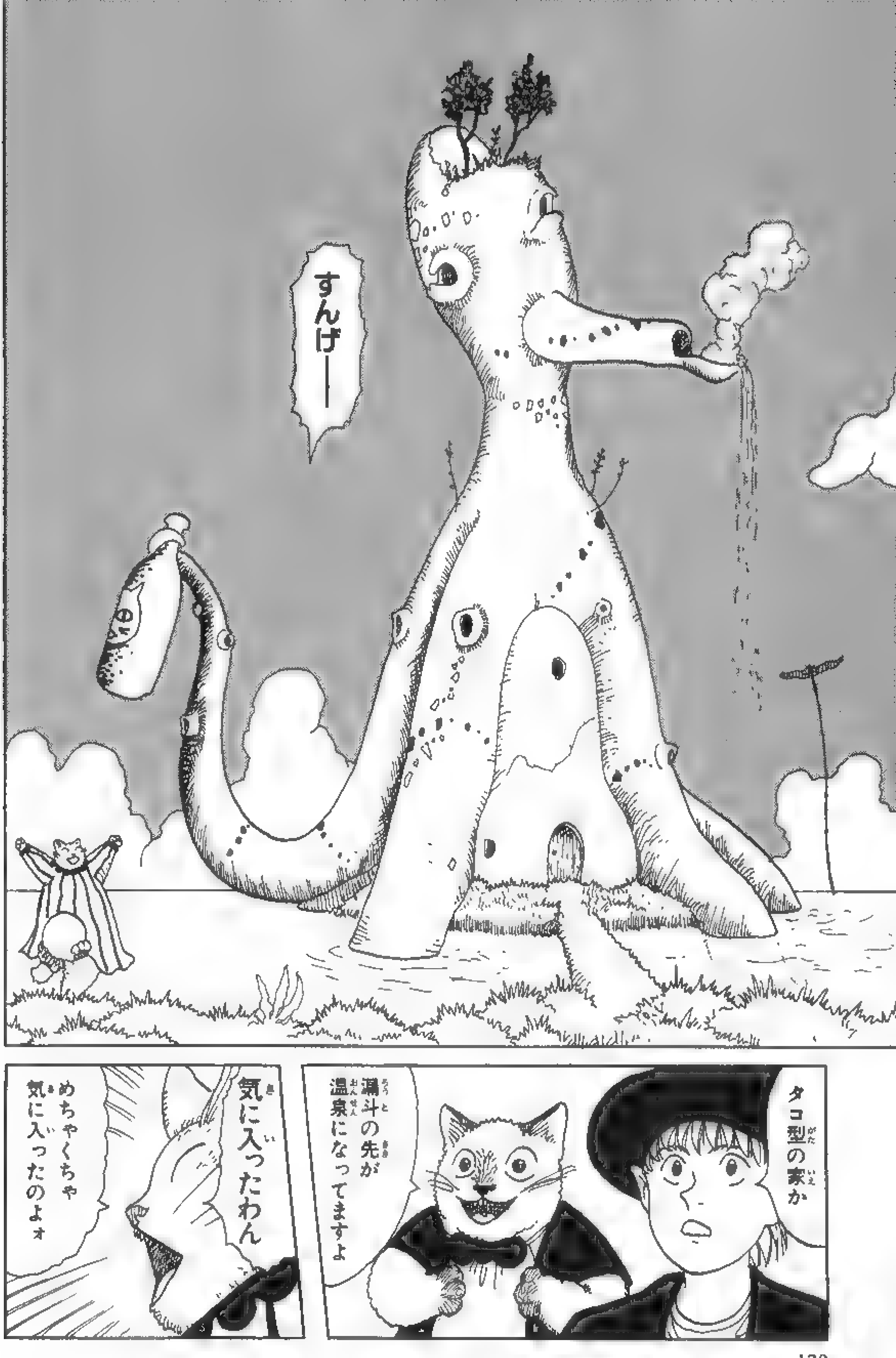

無残だな
そーなのよォ
悪い奴らに
ブチこわされ
たのよ〜っ
ウソこけ
借金溜めた
からだろ
これを
復元すれば
いいのだな
フクゲン？



元にもどすことよ
ヒョウタンの型に
い——や
ダメです
ダメ？
ツキミ姫の家みたいに
型が変わる奴が
いいぞっ
ああ
いいよ


おっ
笛の音だ
もう始まってますよー
家作りー！
不思議な旋律ですなあ
うっ
ボコッ
凄ーーっ
ごっ
ズッ
なんだこれは？
キャーーッ
凄いのよーっ


ガキ
パチ
パキ
ギギ
ゴン
どんどん どんどん 集まってーっ
ズズ
んっ
ボーン
なんだ ありゃ
変なものが 埋まってたんだ なあ
ふう…


すんげ――
タコ型の家か
漏斗の先が温泉になってますよ
気に入ったわん
めちゃくちゃ気に入ったのよォ



ツキミ姫ありがとーっ
どーいたしまして
さっ みんなっ入ってくれよ
おっ カッコいいーっ
これはもしかして?
ああ森のブドウ水が飲めるんだよ
ステキですねぇ
ブドウ水もいいけど酒とか出ないの?
お酒はムリだよ
あれ



これ
さっきの
石像だ
変だなあ
笛の音で選ばれた
物質はみんな
分解されるのに…
どういう
ことだ？
よほど
強い念が
込められて
いるんだな
念？
念って
なんだ？
精神をしぼり出して
思うことだよ
「タコ食いてえ」と
おまえが思ったり
することさ
なーるほど
パン


この印……
どこかで
見たような
フーム
ペタ…
うっ
まぶっ
おわっ
わあ


らあ
あれ……ここは?
いよーこそ星街へ
あっ


星街!!
ホントだ
星街だ
星街ってなんなのさ
さすが忘れん坊の王様だね
ずっと前に私と来たじゃないか
記憶にございませーん
それにしても…「きもうさ像」から民が飛び出すとは
ただの役立たずの像じゃなかったのか
どーだっ
やっぱり伝説は本当だったのだ


ねえねえ君たち
どうやってココへ来たんだい？
アタゴオルの森の地面の中からこれに似た石像が出てきてね
それにさわっていたら光が吹き出して引き込まれたんだよ
そうか それは遠い昔 地上に奉納されたきもうさ様だ
土中にお眠りなさっていたのだな
なに言ってんだかさっぱり判らん
ところでそのかぶりものはなんなのですか？
きもうさ座光波浴々団の正装なのだ
きもうさ座


きもうさ座なんて星座ありませんよ
うさぎ座ならありますが
うさぎ座の8つ星がきもうさ座なのさ
えっうさぎ座って星が5つなのでは…？
星街の者は眼が良いから8つ見えてきもうさ座になるのだ
パチ
パチ
ら
あっ輝き出したっ
おおっきもうさ様が復活なされたぞっ


パチッ
パチッ
ら
ポン
おお凄い
吹いたぞっ
あんたたちが
通って来たから
刺激されたんだな
すばらしいっ
なんだい コレ？
光種
だよ


光種!?
そうさ
きもうさ座の
星々からの光を
集めたものさ
2日後
星街かあ
しかし……
来たはいいけど
帰れないとはねえ
うえへへっ
いいじゃないの
オレたちの
せいで出た
光種が
たくさん売れて
ガッポリ入った
んだからさ
宿に泊まれて
酒も飲めるし…
帰る方法が
見つかるまで
光の種を
育てましょう
おっ
そろそろ
みゃおろ


オイッ
トラモ星団南天36東26水ヤリノ時ゾ
この猫の目時計どうも偉そうですなあ
ムッ
親方ぶっこわしちゃダメですよ
水まけばいいんだべ
まいてやるわよ〜〜っ
ホーレホレホレ
光の水だよ
でも どうして自分の光種は他の者に水やりさせるとダメなんだろうね
心が通じないからさ
心が大切なのよ

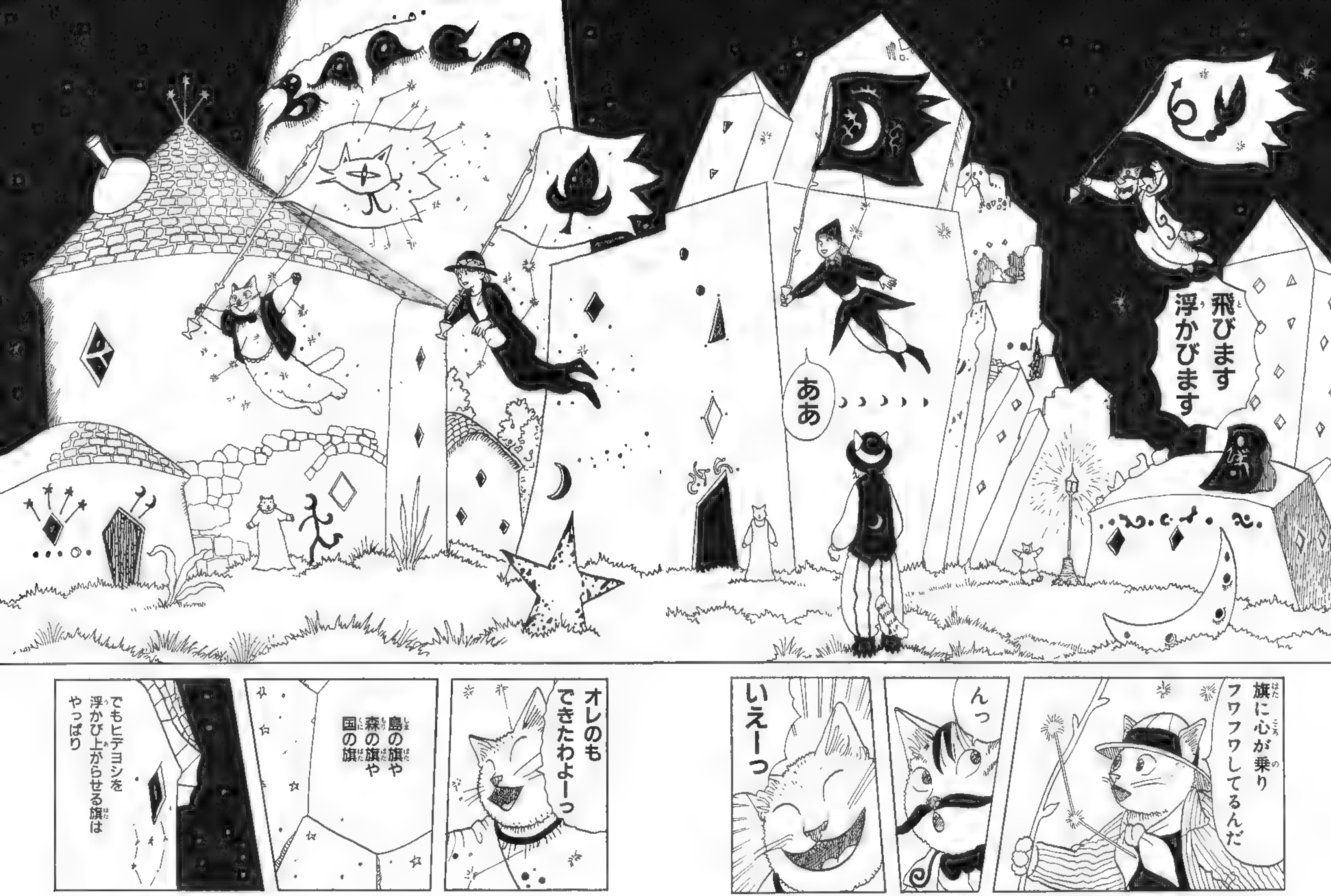

おまえが言うと
うそっぽいなあ
パリッ
らっ
わおっ
にゃあーっ
スーー
芽が吹いた
オイラのも
パンツ君のも
テンプラ君のも
ツキミ姫のも
親方のも

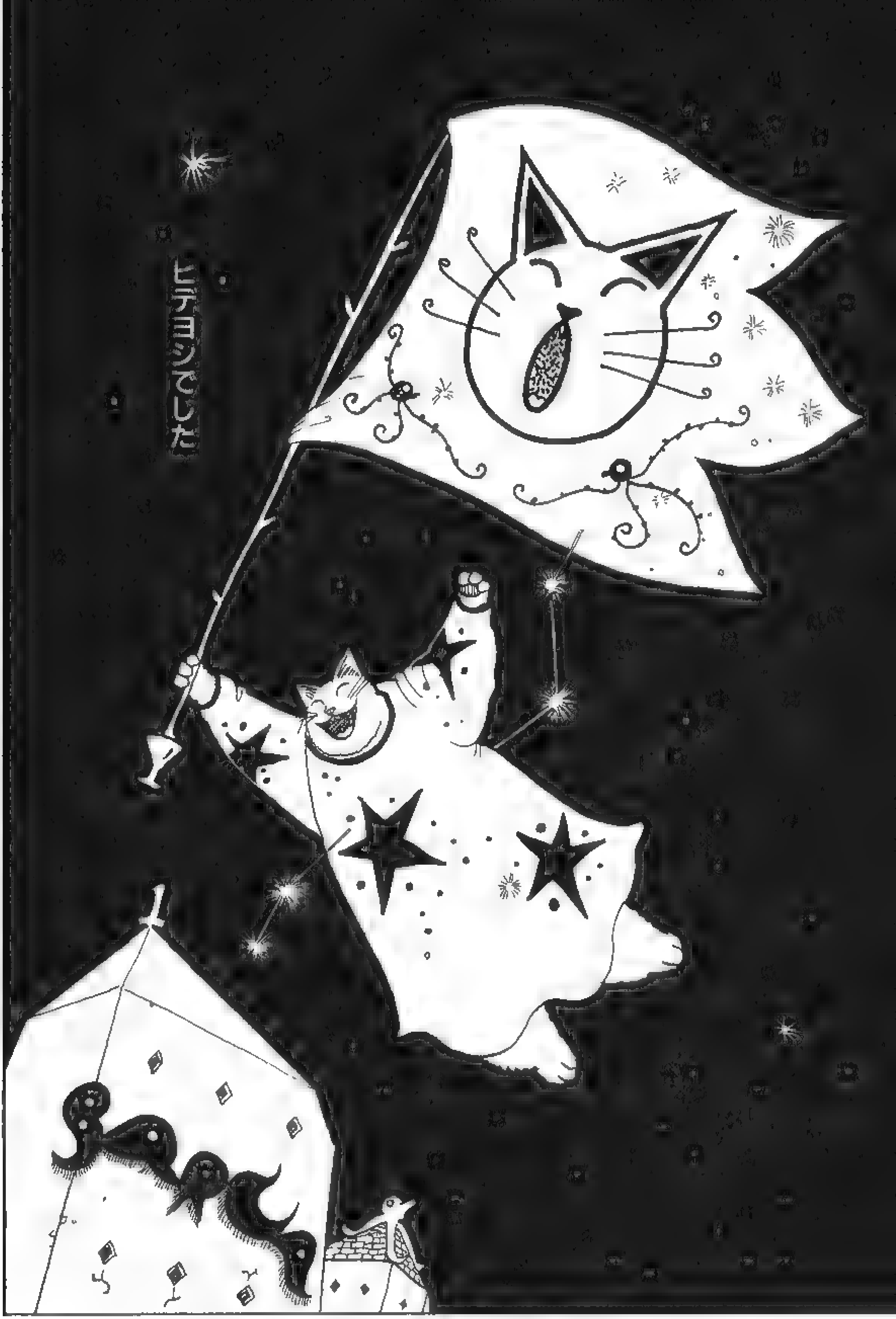

なんでオレのだけ芽が吹かないのよ〜〜っ
心が通じないからさ
心が大切なのよ
ポン
ぐぷぐぷ
えへへ
おほほほ
ポッ
シュル
シュル
おっ
あらら


これは!!
ひえっ
青猫島の旗だ
私のは床屋にして天才演奏家だった偉大なるチョビランペ氏の印ですよっ
この光の種は「星街製植物誌」にのっている旗芽気草だね
旗芽気草



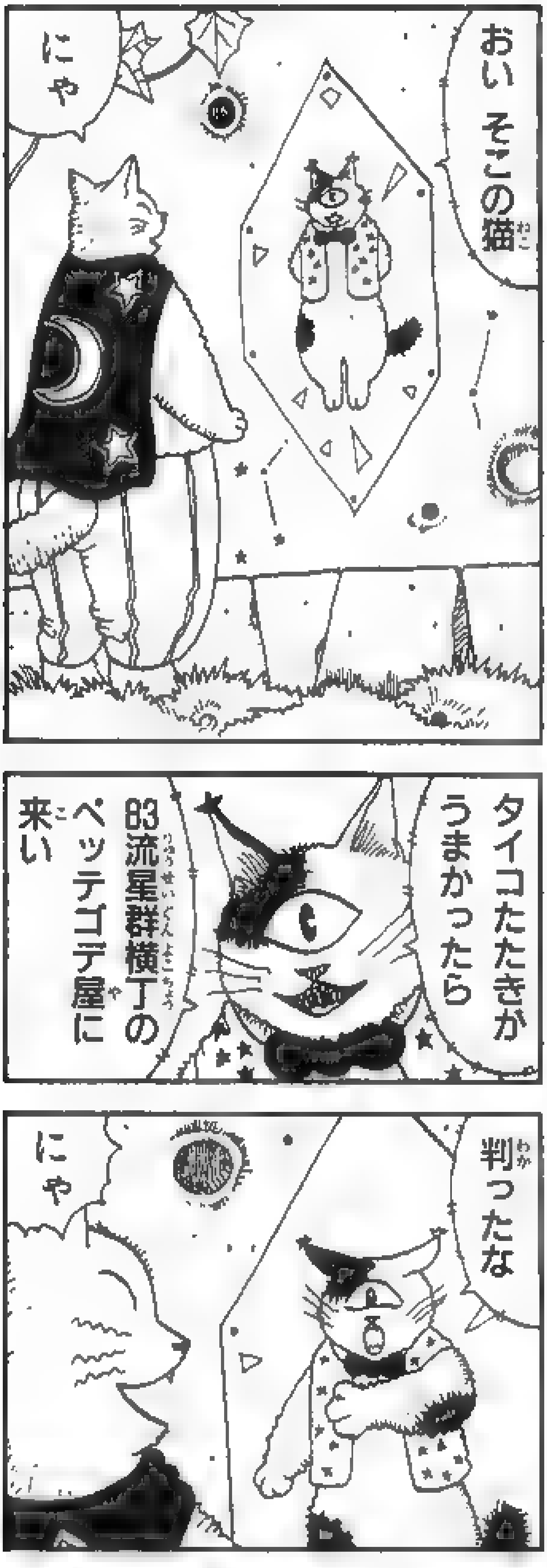
私のは王家の紋章だ
それにしても なんと魅惑的な… 引き込まれていきそうだ
ああっ… これはオレが生まれた森の印
旗芽気草は胸の中の空にはためいている印を表すらしい…
おっ
ふふ
わあ

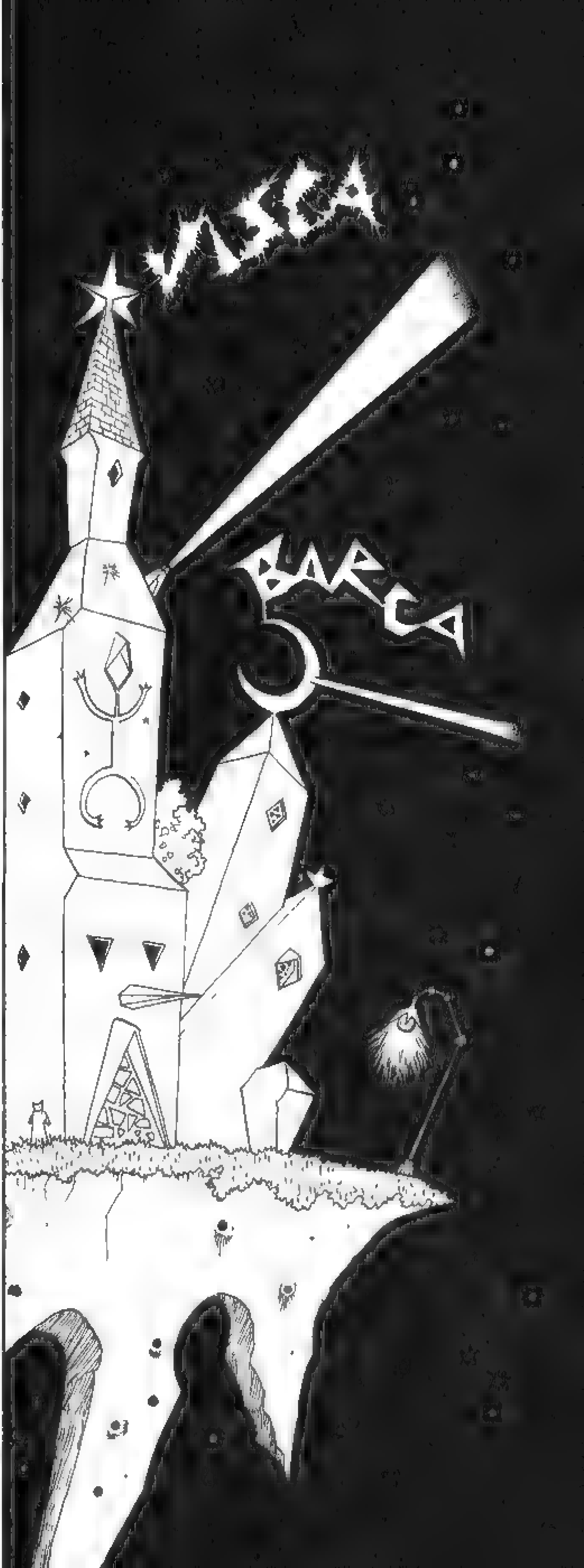

飛びます
浮かびます
ああ
旗に心が乗り
フワフワしてるんだ
んっ
いえーっ
オレのも
できたわよーっ
島の旗や
森の旗や
国の旗
でもヒデヨシを
浮かび上がらせる旗は
やっぱり


ヒデヨシでした

第七話　ÁJI（アジ）




おい そこの猫
にゃ
タイコたたきがうまかったら
83流星群横丁のベッテゴテ屋に来い
判ったな
にゃ
おい そこの猫
にゃん



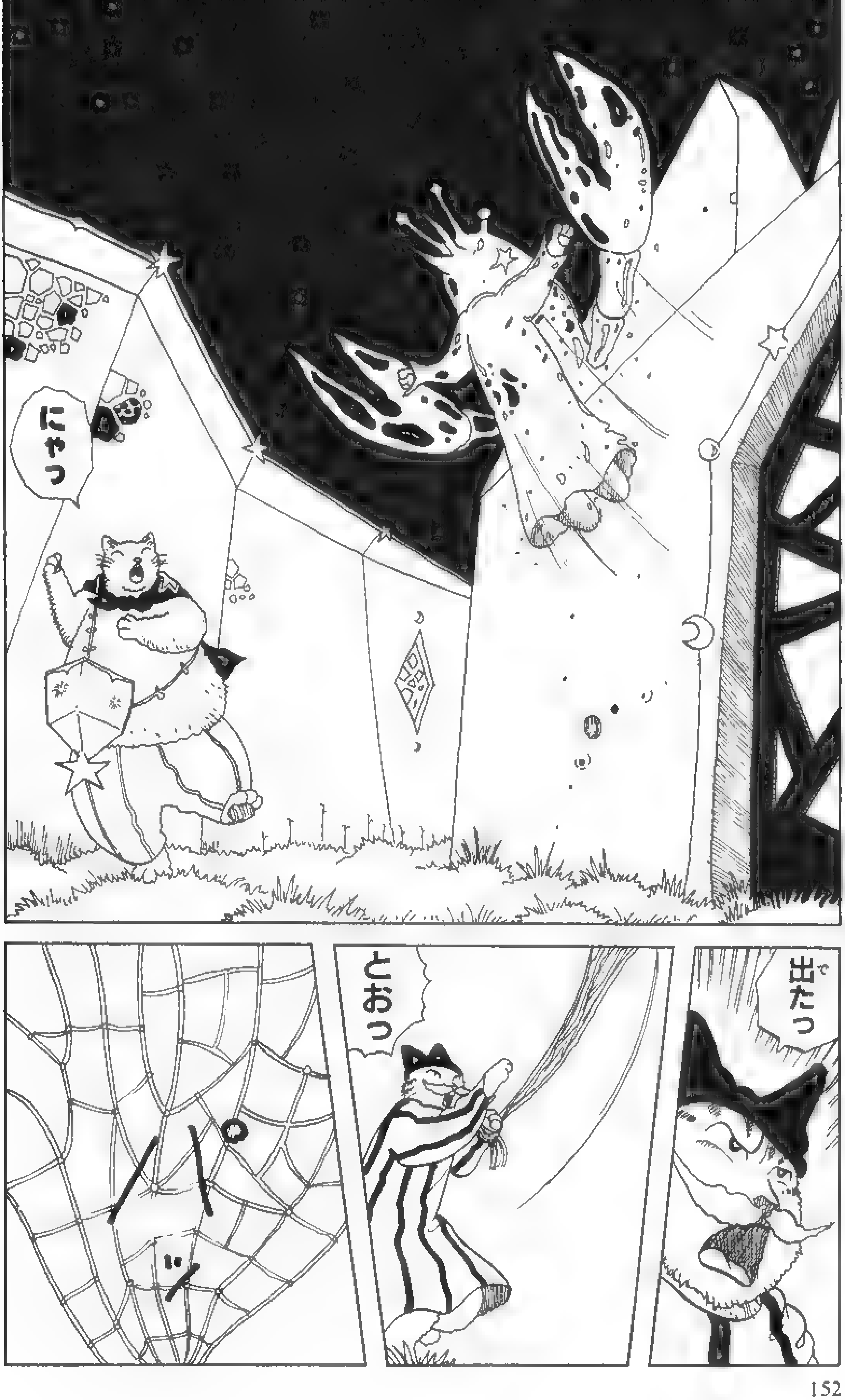


なんべん見てるんだい？
行くの？
行かないの？
行くに決まってっぺ
ここだな
こんばんは
イエ〜〜〜ッ
タイコたたきのうまい男だぜーっ
見るからに打楽器系のバカモノ…
よろしい腕を見せてくんなまし



ラタタスタッ
く〜〜っ
タン
タタタッ
うまいっ
お主合格じゃ
当然だべよ
でかい音は気ん持ちエーわあ
おっ 寄せタイコか ひさしぶりだ
星の祭りっぽくてイイもんだのう
タタタッ
イエ〜〜〜ッ 星の祭りなのかあ
乗り乗りだわよ〜っ


このデブ
うまいぞォ
ほーっほっ
ト
ヒデヨシ君のタイコは楽しいね
胸の中がはずんでくる
タッ
ええ
親方が言ってました
悩めば上手くなる者と悩まないから上手くなる者がいる
タン
タタ
なんだこの気配は…？
あれ
なに持ってんだイギラさん
！


にゃっ
出たっ
とおっ


甘い
そんなことで
星空の漁師と
言えるかっ
そこの
おデブちゃん
おまえのタイコ
気に入ったぞ
アンタ
誰？
ワシは
モモズモモ四世
ではなっ
なんだ あの ぼやけた
エビ男は…
モモズモモ四世の
幻影だよ
ありゃ
消えちゃったっ


モモズモモ四世?
ああ 星街に住む 天才発明家だよ
その姿を 見た者はないが 幻影だけが いいタイコの音がすると 現れるのだ
どうして それを 捕まえようと?
ワシは網糸屋を やっているが 空の漁師でね
…まあ アレを捕らえれば 判るよ
エビの姿で出て来たと いうことは…
ここが主星とすれば 2番星の位置は… 銀鯨通りとみた
銀鯨通り
わおーっ
ずいぶんたたいてるのに なんともならないねえ
いや さっきから 変な気配が 近くにいるよ


にゃっ
出たっ
今度こそ決めてやるぜ
とっ
おっ
うぐっ
パチ パチ パチ パチ パチ パチ パチ パチ
やったっ


パシッ
あっ
網が切られたっ
ワシは誰にも捕まえられない
コノヤロ
きたないぞ
変な声なんか出して
だまれ
おデブちゃん
おまえはワシのためにたたけばいいのだー
では
また明日
あっコラッ
消えるな
くっそーっ
オレが捕まえてやる
捕まえるったって
呪文で また
切られちまうよ


私がやってみましょう
翌日
それそれ
そーーれ
うーむ
ぜんぜん
出ないのう
ツキミ姫じゃ
ムリなのか
なあ



ムリじゃありません
壁の中で気配が踊ってます
ホレホレ
イエ〜〜〜ッ
乗り乗りよォ
いいっ
あ
出たっ
ぐはっ


やるな 娘よ
だがワシは誰にも捕まらん
パ
だめだっ 呪文で切られる
うわっ
おまえ バズナム語が話せるのかっ
うっ…なんという強力な…
すばらしい娘だ


あれ
おっ
やったっ
キリ
キリ
キリ
ビュッ
光の矢が飛んでいった
いやーーっ
ツキミ姫
ありがとう


どういたしまして
ゴオナ ゴオナ
モモズモモ四世の矢が 放たれました モモズモモ四世の矢が…
すげえっ ひさしぶりだな
もし もし
誰かに ぶっささるのさ
ああ オレも 当たりたいなあ
来たっ
放たれた矢って… どうなるのですか
そりゃあ 矢だよ
おっ
きゃあ


う
ら
テンプラ
うわっ
だいじょうぶだよ
テンプラ君(くん)
だいじょうぶかっ


ズズッ
うう いい…
矢がどんどん めりこんで いきますよ
いいなあ うらやましいよっ
光の矢がささって ピカピカ光を たれ流して
なにが うらやましいのさ?
んーっ
まあ 見ていたまえ


ふう…
おっ 光が消えたぞ
だいじょうぶか テンプラ
変なんだ… 体の中を ウネウネと タコがはい回って いるような…
なに——っ
体の中を タコが はい回ってるう
いいなあ
オレも はい回れよォ
タイコたたいて がんばったのは オレなのに



ど～して
ボケーッと見ていた
テンプラがタコなのよォ
ドド
ドン
ありゃ
ホントに
泣いてる
う
うわ
なんだ
こりゃあ
凄ーーっ


星街にでっかいテンプラが寝てるぞ


へーっ
光になった
テンプラ君の
体の中だ
タコなんて
どこにもいないじゃ
ないのよォ
あれっ
おっ
めっけ
ぱくっ
カリ
カリ
あっ
すぐ食う!!
うっ
甘っ
タコ型の
コンペイトウだっ


ホントだっ
不思議な
甘さ
ああ…
なんなの
だろう
この味
テンプラ君の
想い出の味だよ
想い出
ああ
生きていれば
色んなことが想い出になる
楽しい時や
つらかったこと
にがいものもあれば
ふるえる時もある
でも どんなものでも
時が流れれば


コンペイトウの味になるんだよ

第八話　詩猫（しねこ）




凄い星だなあ
この街には独特の静けさがありますなあ
何故なんでしょう
この無数の星々のせいじゃないのかなあ
ああ
こんなにたくさんの星を見ていると…
胸がキューッとしてくるねえ


わははは
なに地味にしてんのさーっ
どーんと飲みに行こうぜい
静寂を破るヒデヨシ君登場
銘酒「隕石蒼」つーのんまいのよっ
行くべし行くべし
いーからひとりで行けよ
オレたちは星をながめているからさ
星なんか見ていても
腹へるだけだぜ
じゃあな
あれ


変だなあ
道に迷いましたね
宿は この方角だと思うけどなあ
あそこに見えるのが変わら帽子座の3番星だから
方角はまちがっていないよ
「星々の胞子が私の胸にささやく」
「遠い昔 おまえは惑星だったと」
「銀河の暗黒の広場には まだ私の影が」
「残っているのだ」



「球型の影法師よ」
「弱腰にまたたく星どもを笑い邪道人の流星へと化身する儀式の日々」
「遠ざかるそれらの時刻が我が胸に青白く点滅して叫ぶ」
「粉砕せよ この平面猫を」
パゲッチルンメ イズムアルメエグ
あの言葉は!?
サッ


かっこいい…
ああ
最後に言った言語は たぶん バルバリン語だ
バルバリン語？
古代にあった空中都市の言葉だよ
古代の星街みたいなものさ
あの方が語っていたのは詩ですね
聞いていると胸が熱くなってきました
オレもです
んっ


うへーーっ
アタゴオルの奴はみんな夜になるとタコ踊りしてるんだってよっ
わはは
ガャ
ガャ
くねくね
くーーっ
アタゴオルの恥さらし
ああっ
せっかくの
すばらしい
感動がっ
くねくね
踊りましゅー
翌日


今夜もあの方は語るのでしょうか
また聞きたいですね
ええっ
あんなすばらしい詩もっと聞きたいですっ
し？
誰か死んだのか？
死んでないよ それより そのタコの漏斗と足どうしたんだ？
ヒデ丸に作ってもらったのさ 欲しいだろう
いらないよっ
で… 「し」ってなんなのよ？
詩か… 詩をおまえに説明するにはなんと言えばいいのかなあ…


ハイ
こんな時のための小型辞書
偉いぞヒデ丸
胸に辞書とはっ
ヒデヨシ君が時々起こす「なんなのさ質問」に答えるためです
えーと…「詩」ですね
詩…
「文芸の1つの型。生活や自然体験から起こった感動を
一種の拍子を持つ言葉で表したもの」
「生活で感動したことを 乗りのある言葉で言う」
それってオレじゃん
オレの毎日が「詩」なのさっ
いーや あのお方の詩は違いますっ


確かこの辺で見たんだがなあ
来ませんねえ
詩猫ーっ出て来ーい
うるさいなーっヒデヨシ静かにしろよ
あっ来た
えっどこっっ
ここじゃよ
星街最強の詩猫スミレであるっ
お待たせした
待ってないよ
「星がチッカチッカ光っているのはっみーんなタコを食いすぎたせいだ」
「ジュールジュールとコタレのように流れ星は流れろっ」
「3日前に完全に腐っていた魚の」


「トロンとした目が
ワシに言ったっ
『オレが食えるか?』」
「んなもん
食えますともォ」
これ あげるから
飲んできて
おおっ
どーも
ワシの詩の
感激料として
かたじけなく
いただこう
では失礼
しーーん
ああっ
今夜は
会えなかったな
ヒデヨシ君の
わめき声しか
聞けませんでしたね
んっ
「因習の風が
細道を吹きぬけて
おまえの旅が終わったことを
つげる」
「だが本当に
終わったのか」
「窓に格子をはめて
微笑みの海に
流れし者よ」
「市場で買った
安価な嘆きを皿に盛り
ホクホクと噛み締める者よ」


「想起せよっ その皿もまた 銀河なり」
「嘆きもまた つかのまの星だと」
ステキ…
バゲッチルンメ イズムアルメエグ
また あの言葉 …
どういう意味だろう
すばらしい
そなた お名前を お聞かせ 願いたい
名乗るような 者ではありません ……
スタスタ
その時は 貴方が 作られたのですかっ
いかにも
即興で… では失礼


即興
翌日
即興ですよっ 凄すぎますっ
ワシだって 即興詩 じゃぞ
おまえのは 口から 出まかせ だろう
最後の言葉も 気になりますねえ
あの バルバリン語か
星街の図書館で 調べてみよう
4日後
感動したよ
ガヤガヤ
静かに して下さい
昨日よりも 増えてるな
ああこの 待ち続ける 感じがステキ
おっ 影が近づいて 来る
いらっしゃったぞ



お待たせしましたぁ
アタゴオルが生んだ
吟遊詩の王様
スミレ博士
参上〜〜〜っ
また
おまえかっ
帰れっ
引っこめ
デブ猫
「大ダコの
ヨダレは
流れ星より
速く
ズールズルと
たれ落ちっ」
「あわてて
ワシは
すすったっ」
「じゅ〜〜る じゅる
塩味のまじったヨダレちゃん
タマランのよーっ
タマランのよーっとワシの
胃袋が痙攣踊りをする」
シビ
シビ
「そしてワシは
タコの吸盤の
丸みにホホを
寄せる」
「ペッキュンと
吸いついてくる
その吸盤を
「アムッと噛み」
じ〜ん
あれっ


みんな ずらかり おった
詩猫とは 孤独なものよっ
孤独を癒すのは 酢ダコとお酒
せっかく 着替えしたのに
ぶつぶつ
ワシの スミレ変身への がんばりに対して 感激料を 払うべきなのじゃ
キツイ上着 着たつーのによっ
さーーてっ
今夜も 飲んで騒いで タコ踊りーーっ
あーあ ヒデヨシ君の ヨダレ話なんか 聞かされて…
調子狂います
ヒデヨシ君 飲み屋で 「アタゴオルの住民は 石をかじります」 とか言ってるらしく
さっき知らない猫に 「君 かじってみせてよ」と 言われましたよ
あいつをひとりで 飲み屋に 行かせるのも 問題だな
あっ


「おお 私に まとわりつく哀れみの声が 幾重にも連なって 黄金の地平線を隠している」
「嘲笑の声の山脈 その頂で 私を罵っているのは 群青色の２つの瞳」
「銀河の法則に歯向かい 光波の流れに歯向かって 続けた旅を 何故やめたのか」
「街の灯りは慰安の色彩で 流木たちを眠らせ 私もまたそこに漂う」
「枯れ枝や廃木たちは 忘れ支度を始め 大空で鳥たちが乱舞し 銀河の背骨が 出現する」
「だが それに気づくのは 旅する魂だけだ」
ああ すばらしい
なんて ステキな・・


「旅を続けよっ
終着の町は幻なり
旅を続けよっ
鏡に映るものは幻なり」
「壁などに留まるために
生まれて来たのではない」
「地平線をめざせ」
「言葉ではとらえられない
あの地平線をめざせっ」
うぅっ
じ〜〜ん
なんて…なんて
ステキな御方
バゲッチルンメ
…床屋や喫茶店
やりながらの音楽
じゃなくて…
音の地平線に
行かなくては…
イスムアル


メェグ
なっ
なによっ このデブ猫っ


タコちゃん タコちゃん
クンネリ ぬるうり
ら
あの方が消えてアタゴオルの馬鹿になった
イヤーーーッ
どういうことなんだっ
ヒデヨシ君が……あんなすばらしい方に変身していたっちゅーのですかっ
飲み屋で踊っていたのになんでこんな所にいるのだ？
シューーッ
ダメ〜〜〜ッ
このデブ猫こそ幻よっ
早く消えてっ
もどってよォ
なに言ってんだ
この娘


ヒデヨシの頭から煙が出てるぞ
あれはカプタプタ隕石の発煙だっ
カプタプタ隕石!?
???????
隕石博物館
これか
「カプタプタ隕石 モモンガ星雲の方角より星街に落下」
「周期的に黄色の煙を発するが無害」


あれっ
ここがブッカけてますねっ
それも最近っぽい
オレが食ったのさ
食った?
隕石をか?
だってホラ この石 タコの型に見えるだろう 実に んまそうだ
タコ?
これがタコに見えるんですかっ
で どんな味したんですか?
ジャリジャリ 変にすっぱいような…


すっぱい!!
2日後
「そーれ そーれ」
「私はイカの床屋さんーっ」
隕石を食ったのが変身の原因なんだろうな
そういうことだろう
「もしもし そこの紅マグロ 私が背びれを切ってあげよう」
「そう言って安心したところをガブリン くーっ うめえっ」
あっ
「そーれっ もう ひとかじ」
あ〜〜っなんで こんな馬鹿話を 聞かなくちゃならないのっ
がまんしろっ たえるんだっ


…り……
「転々する惑星の悲しみ」
キャーーーッ
かっこいいっ
それにしても
この詩猫
いったい何者なんだろう
判らない…
古代の天才的な吟遊詩猫の魂かなあ…
「おお 銀河に渦巻く真理の熱よっ」
「なにをさし出せば」
そういえばっ
最後の言葉
「バゲッチルンメイスムアルメエグ」の意味が判ったぜ
えっ…なんて言ってたんだ?
「本当の賢者は」



アタゴオルは猫の森⑩　おわり

ますむら・ひろし先生の最新情報はホームページ

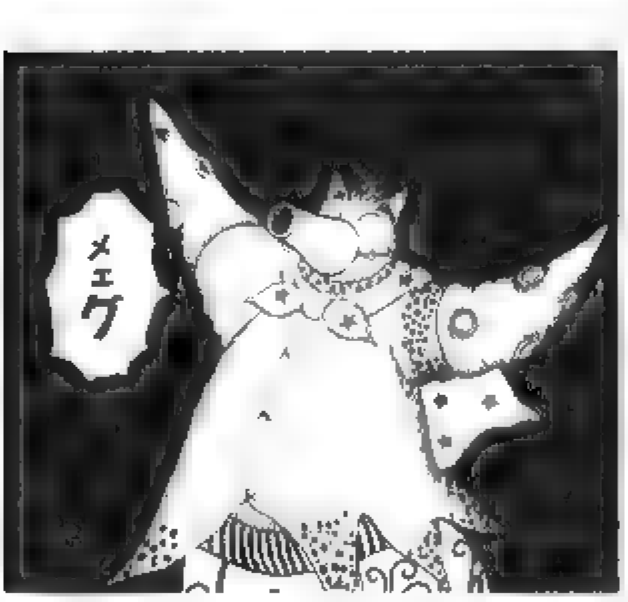
「ごろなお通信」

をご覧ください。

イベントや新刊の情報、日頃の創作活動など

楽しみいっぱいです。

http://www.tiara.cc/~goronao/



アタゴオル余波10

ますむら・ひろし

映画「アタゴオルは猫の森」公開のために、いろんな媒体からのインタビューなどがドンドコやってきて、火の車です。本来なら、忙しいからあとでと断るものを、映画公開の期日にあわせてのため逃げられず、そんな中で同じような質問を繰り返されると、だんだん答えるのに飽きてきて、違うことを言いたくなったりする。なるほど、ビートルズが「どうして、髪を伸ばしているのか」と質問を繰り替えされたように、「何故、猫で描いたのか」とか、「貴方にとって猫とは何なのか」といったものが、さざ波のように寄せてくるのだが、こちらは浜辺で「猫とは、自然の代理」「人間に破壊される自然の声無き声を代弁するものでした」というのを用意する。だが、こうした答えを繰り返しているうち、僕のなかの無意識が、どうも違うことを言いたがっているような気がしてくるのだ。それは、僕のソンピン気質「米沢弁でいうところの、ヒネクレ者」の血のようでもあるが、実はそればかりでなく、言葉で答えられないもの、言葉で捕らえられないもの、それが僕のなかにあって、猫を選んでいるような気がする。さてそうしたインタビューの最後の方で、必ずある質問が「アタゴオルは、これから、どんな方向へ行くのですか」。

そこで僕は路頭に迷う。行き先の無い旅人のように、そんな質問に答えようがないのだ。計画的、あるいは客観的な視線を、常に作品に向けているような性格ではない。「いきあたり、ばったり」の生活者が描いたモノに、その手の質問しても無駄なのよーと言いたくなる。それにしてもこうしたインタビューを何本も受けると、「何故」を繰り返す取調室で、調書をとられるような気分になってしまうのだが、その答えを探すうち、ぼんやりと自分の影が見えたりする。その影こそ、僕に漫画を描かせ、アタゴオルの方向を示唆しているのだ。そいつをキチンと見つければ、そいつこそが、いきあたりばったりの旅の行く道を知っているのだ。

では、収録作品たちへの補足的な言葉を。

「メル・ゲンバ・ルベ」。初心忘れルベからず、という言

葉で指摘される初心。僕もいろんな場所で初心を雪球のように作り、固く決心して歳月の中で溶かしてきた。昔の自分が今の自分を見たら、何を許し何を許さないのだろう。小石川の三畳間に居た自分の影が、何をゆるさないだろう。夜汽車になりたいの、あの列車に映った十八歳のシルエットが、何をゆるさないだろう。そんなことを思うのだ。テンプラの中には、許さない心があるだろうし、ヒデヨシの中には、なんでも許す心があるのだろう。すくなくとも、こうした作品は、歳月が描かせるもので、二十歳の自分には考えられない。すなわち、二十歳の自分にとっては、ラスト・シーンで見ているものこそ、未来の自分でしかないのだから。





「胸底晩花」。表紙は、リオン・ラッセル様。ジョー・コッカーとのツアーでのお姿がモデル。年末になると借金取りが来るのはアタゴオルの風物詩なのだが、なんとも穏便なる物語の展開になった。少なくともテマリは、作者に向かって相当な抗議の声があると思う。

「バルボル」。表紙絵は、ボブ・ディランのアルバム・ジャケット。ニューヨークの街を歩く寒そうなディランと恋人。

冬の話になると、やはり米沢の冬が思い出されるが、ツララを年寄りたちは「カナコウリ」金氷と呼んでいた。これがニョキニョキ成長して高い屋根の軒下にぶら下がっている。それを雪球投げて落とすというのも、ガキどもの学校帰りの楽しみのひとつだった。ツララは、ほおっておくと危険なもので、たまに

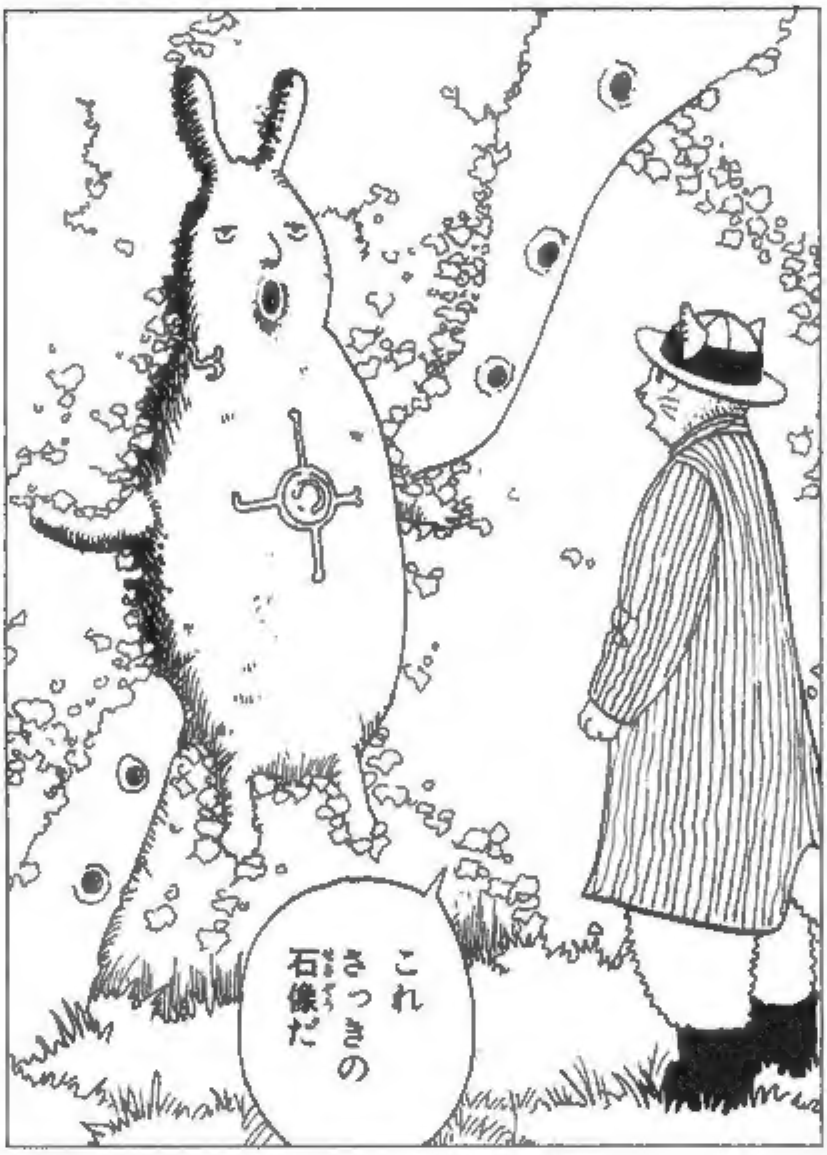


頭に落ちてきて死んだりすることもあったりした。さてギルバルスが来るとろくなことが起こらないというヒデヨシの声は、確かにそうなのだが、今回はハズレ。昔は、ガラス窓に水滴が凍り、雪の結晶的な模様を作るのを見たりしたが、子供心にもそれが不思議な形であることはわかったが、それほどの興味はわかなかった。歳月がたち、こうしたものの美しさを感じるようになって、雪の結晶という文字に、僕の脳内アンテナが反応するようになると、ある日茨城県方面から電波が来て、古河まで行った。そこで展覧会があったのだが、「雪の結晶を研究した殿様」というもので、紋所に結晶の模様の羽織など、なかなか風流にして奇才なる御仁であった。雪の結晶のいろいろな形もまた、何か、自然が見せる美しさの秘密を解く鍵なのかも知れない。

「メジェカ」。春が来るたび、枝から芽吹きが始まる時の不思議な嬉しさは、どこから来るのだろう。葉が枯れ落ち葉になっ



て、寒い枝たちの冬。その風景があるからこそ、あの芽吹きの喜びがあるのだろう。もしも常緑樹しか無かったら、こうした感覚は味わえないし、常夏の地では感じることのできないものが、春なのかもしれない。ドラネコ団のモデルになったカツラやチャチャ丸やブチ丸たちは、二十六年前に我が家から家出して、今はさすがにこの星に生きてはいないだろうが、アタゴオルのなかで、今もこれからもこんな風に生き続けている。



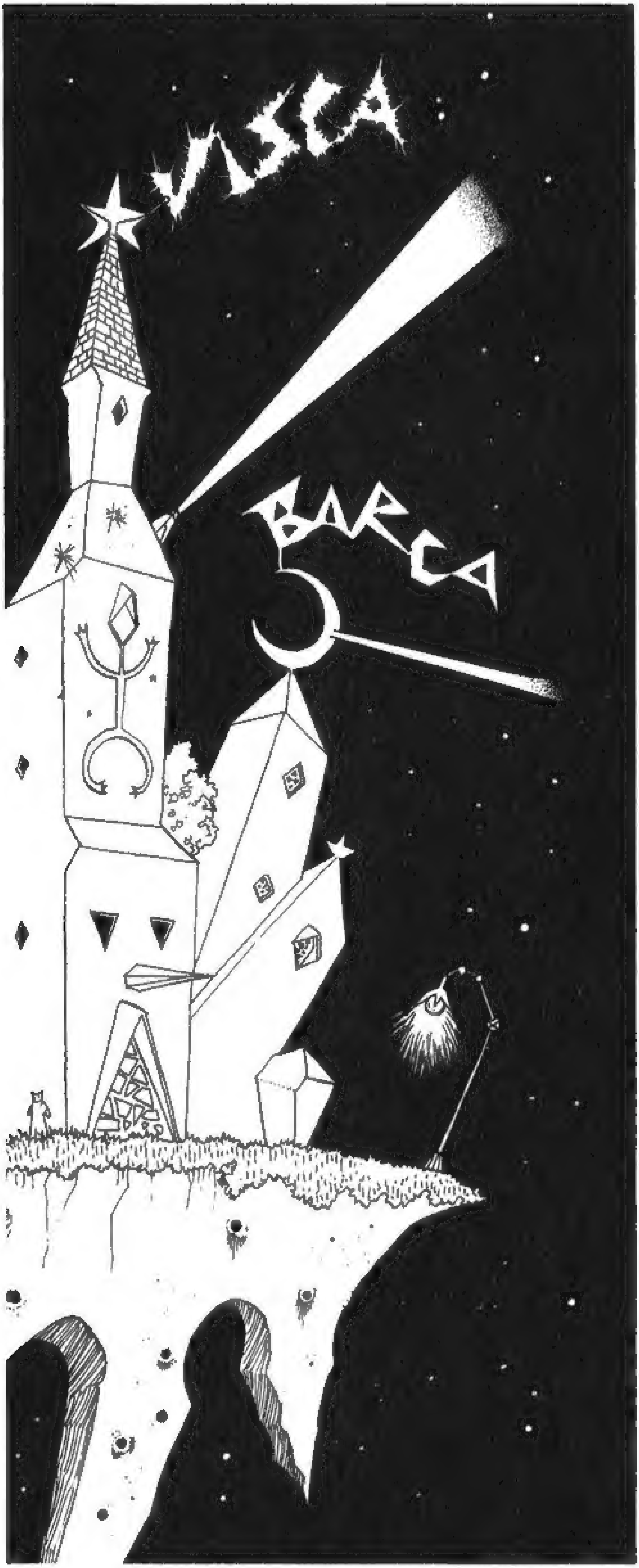
「胸ニハタメク」。FCバルセロナの二年連続リーグ優勝が近づく時期に描かれた作品。ヒデヨシもすでに前祝いしているが、手に持ってる水晶製タコ型トロフィーは、もうひとつの目標、欧州チャンピオンズ・リーグの優勝を願ってのものだ。作品世界では、アタゴオルから星街へ久しぶりの移動となる。この通底器の役割をする「きもうさ」像。この「きもうさ」の原画は我が家のチラシや、何かの伝言紙で見かけるもので、描いたのは我が娘。これが家のアチコチの紙で見かけるようになっていたのだが、何十匹も描かれた「きもうさ」の絵がインパクトありすぎて、星街へのご出馬を願った。著作権的に言えば、僕の絵ではないので、キチンと許可をもらって描いてみたが、作者の感想は、「おとーさん、コレきもすぎる」。確かに本人の描いた絵の、あの感じがうまく描けていない。うむむ、やっぱり絵は、心だねえ。さて、僕はバルサの旗は、振る。そしてあの旗のシモベでもある。そうしてカンプノウで、バルサの旗をたくさん見ながら、ヒデヨシは、どんな旗を振るのだろうという想いになったのだ。

「AJI」。この作品の下書きは、バルセロナの定宿「ペンション・チキート」六号室でやっている。三ページ目には星

街の屋根にチキートのスペルも出ているし、建物はグエル公園の破砕タイル的である。なんたって、二ページ目の物語冒頭のシーンが「ビスカ・バルサ」の光文字で、星街からもバルサへの声援を送っている。「環境が意識へ影響する」の実証のようで、もしもバルセロナに定住して描く生活をすれば、僕の絵の風景は、あの地中海の街の匂いが、ごろにゃん的に消化された形になってもっと現れていくだろう。

表紙絵は、決勝進出したバルサの巴里行きを記念して、「巴里」「勝利の女神」という文字を連想した瞬間、脳内に一枚の絵画が浮かんできたのだった。

「詩猫」。三月後半にバルセロナに行き一度戻って、四月後半から一カ月またチキートに泊まり、バルサのリーグ優勝と、欧州チャンピオン決勝への旅をした。表紙絵はリーグ優勝して空港からカンプノウに走るバスの選手たち、エ



スケーロ・パンツ、プジョール・ヒデヨシ、シャビ・カラアゲマルとなる。この作品は下書きからペン入れまで、ほとんどバルセロナで描いたのだが、作中で繰り返される「ビスカ・バルサ」。カタルーニア語で「がんばれ・バルサ」の文字は、僕の祈りだ。毎日部屋の中で黙々と描きながら、なんと日本の自宅にいるときよりも、勤勉に描き続けたことか。七ページ目に、星街の宿としてチキートのスペルの建物、カサ・ミラやバトリョオ邸の波うちの匂い。巴里エッフェル



塔的なテッペンに勝利の星、もー、これくらいケナゲに、バルサへの殉教をしたというのに、スペインのズサンなる現実は厳しく、決勝チケットを買うために、一晩路上で徹夜した挙句、売り切れ。しかも発売されるはずのチケットは裏で横流しされているという、ブンムクレるしかないヤリクチを味合わされ、それでもチケット無しで巴里のスタジアムまで行けば、六千円のチケットがどえらい高騰を続け、混沌のなかで試合は始まり、結局スタジアムの外で優勝を味わうという、実に貴重な体験をした。これもまた「苦い勝利」の一種だろうが、旅はいろんな刺激をくれ、その余韻が種となって発芽する。それにしても、この物語のなかで語られる詩猫の言葉、それこそ、ものを描き、何かを創ることへの銃声音だ。音は、紙を通して発信し続ける。

「地平線を目指せ、言葉では捕らえられない、あの地平線を目指せ」。

それは、リュックを背負って歩く僕に、こう聞こえる。

「しーしーしー・のす・ばもす・地平線」。

（初出）コミックフラッパー 2005年12月号～2006年7月号

MFコミックス
フラッパーシリーズ

MFコミックス
アタゴオルは猫の森……………10

2006年10月31日 初版第1刷発行

著者……………ますむら・ひろし

発行人……………松岡博治

発行所……………株式会社メディアファクトリー
〒104-0061 東京都中央区銀座8-4-17
TEL 0570-002-001 03-5469-4760(編集)

印刷・製本…………大日本印刷株式会社

ISBN4-8401-1626-1 C9979